

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-06-02

和仏法律学校講義録

岡, 實 / 山田, 三良 / 松岡, 義正 / 富井, 政章 / 内田, 嘉吉

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

3-19

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1902-08-15

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

(明治三十四年十一月十四日第三種郵便物證可
購
明治三十五年八月十五日發行)

三十五年度 第三學年



和佛法律學校講義錄

第十九集

和佛法律學校發行

第三學年第十九號目次

民法物權 自第七章（至二二七）

至第十一章（至二二〇）

法學博士 富井政章

商法海商產 自一七四（至一七七）

法學士 内田嘉吉

破産法 自五七（至六四）

法學士 松岡義正

民事訴訟法 自第六編（至五六）

法學士 松岡義正

行政法 自三七（至四一）

法學士 岡田實

國際私法 自一六五（至一七六）

法學博士 山田三良

雜報

○支拂拒絶證書作成義務免除ト舉證ノ責任○使用者アル商標ノ意義
○町村ノ區ノ代表權○判決ノ基本タル口頭辯論ノ意義

090

1902

3-1-19

物ト看ルコトニ爲フテ居マス少クモ抵當權ノ及ブ範圍ニ付イテハ疑ナキコトデアルト思フ故ニ是ハ前ニ示シタ原則ニ對スル純然タル例外ト稱スベキモノデハナイ、何トナレバ我邦ニ於テハ建物ハ土地ノ一部即チ土地ト一體ヲ成スモノト石ナインデアル建物ハ土地ノ定著物デアル（第八六條第一項定著物ハ一部ト云フコトデハナイ、寧ロ土地ト別ナル不動產ヲ言現ハシタモノト看ルベキデアム、民法ハ唯或ハ疑ツ生ズベキ事柄ト見テ抵當權ハ地上物ニ及バザルコトヲ規定シタマダノコトデアル

第二 設定行為ニ別段ノ定アルトキ 是ハ説明ヲ要スル事柄デナイン

第三 第四百二十四條ノ規定ニ依ラ債權者ガ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ルトキ是ハ所謂詐害行為ノ場合デアリ、既ニ前學年ニ説明ヲ聽カレタコトト考ヘマヌニ因ツテ説明ヲ略シマス

第四 果實 果實ハ抵當權ノ目的タル不動產ノ一部デアル故ニ明文ナキトデハ抵當權ノ及ブコトト爲ル、然ルニ是ハ抵當權ナル制度ヲ認メタ目的ニ反スルコトデアル、何トナレバ抵當權ハ其設定者ニ於テ使用及ビ收益ノ權ヲ失ハザル

第三學年第十九號目次

民法物權

自第十七章(五百一〇)

法律博士 富 井 敦 真

商法海商法

自第五章(五百四)

法律博士 内 田 高 吉

破産法

自第五章(五百四)

法律博士 松 河 順 正

民事訴訟法

自第六章(五百五)

法律博士 林 誠 正

行政法

(五百六)

法律博士 周 賀 賢

國際私法

(五百七)

法律博士 山 田 三 良

雜報

○支那租界設書作成義務免除ト是證ノ責任○(使用者ナル問題)ノ見解

○町村之區ノ代役權○割失ノ基本スル問題ノ見解

物ト看ルコトニ爲テ居マス少クモ抵當權ノ及ブ範圍ニ付イテハ疑ナキコト云
アルト思フ故ニ是ハ前ニ示シタ原則ニ對スル純然タル例外ト稱スベキモノデ
ハナリ何トナレバ我邦ニ於テハ建物ハ土地ノ一部即チ土地ト一體ヲ成スモノ
ト看大イノデアル、建物ハ土地ノ定著物デアル(第八六條第一項)定著物ハ一部ト
云フコトデハナイ事ロ土地ト別ナル不動產ヲ言現ハシタモノト看ルベキデア
バ、民法ハ唯或ハ疑フ生ズベキ事柄ト見テ抵當權ハ地上物ニ及バザルコトヲ規
定シタマダノコトデアル。其當不動產ニ及バザルコトヲ規定シタマダノコトデアル
第二 設定行為ニ別段ノ定アルトキ 是ハ説明ヲ要スル事柄デナイン

第三 第四百二十四條ノ規定ニ依テ債權者が債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得
ルトキ 是ハ所謂詐害行為ト場合デアリテ既ニ前學年ニ説明ヲ聽カレタコトト
考ヘマヌニ因ツテ説明ヲ略シマス

第四 果實ノ果實ハ抵當權ノ目的タル不動產ノ一部デアリ故ニ明文大キトキ
ハ抵當權人及ブコトト爲テ然ルニ是ハ抵當權大ノ制度ヲ認ムタ目的ニ反ス
コトデアル、何トナレバ抵當權ハ其設定者ニ於テ使用及ビ収益ノ權ヲ失ハザル

コトヲ以テ特質トスルモノニアム、但此原則ニモ二ツノ例外ガアル

(一) 抵當不動產ノ差押アリタルトキ、此場合ニハ抵當不動產ノ所有者ハ其不動產ヲ處分スル権利ヲ失フニ因テ其果實ヲモ處分スルコトヲ得ザルハ當然ノコトデアル

(二) 第三取得者ガ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキ、茲ニ謂フ通知トバ抵當権者ガ抵當権實行ノ意思ヲ第三取得者ニ對シテ表示スルコトヲ謂フ、何レ後ニ説明シマス(第三七一條)

此他抵當権ノ不可分ナルコト、抵當不動產ニ代テ債務者ノ資產ト爲リタルモノニ抵當権ノ及ブコト、又第三者ガ抵當権ヲ設定シタル場合ニ於ケル求償權ニ關シテハ既ニ説明シタル留置權其他ノ擔保物權ニ關スル規定ヲ準用シテアリマス(第三七二條)

抵當権ノ設定、抵當権ハ意思表示ニ依ラテ設定スルモノニアアル、此點ハ留置權及び先取特權ト全ク相異ナル所デアル、我民法ハ佛國民法ニ認ムル如キ未成年者及ビ妻等ノ利益ニ於ケル法律上ノ抵當権及ビ裁判上ノ抵當権ナルモノヲ認メ

ナイ、是ハ財產ノ流通改良ト共ニ取引ノ安全ヲ妨害シ第三者ニ損害ヲ被ラシムル極メテ不當ナル制度デアルト認メタガ故デアル
抵當権ハ通常契約ヲ以テ設定スルモノニアルガ、質權ト異ラ、其目的物ノ引渡ヲ必要トセザルガ故ニ必ズシモ契約タルコトヲ要セナイト思フ、種デハアラウガ遺言ニ依ラテモ設定スルコトヲ妨グナイ

第二節 抵當権ノ效力

民法ハ本節ニ於テ四ツノ事ヲ規定シテ居マス、第一、抵當権ノ順位、第二、抵當権ニ依ラテ擔保セラルベキ債權第三、抵當権ノ處分、第四、第三取得者ニ對スル抵當権之效力、是ヨリ順次ニ此四ツノ事項ヲ説明シヤウト要セナイト思フ

第一款 抵當権ノ順位

抵當権ノ順位問題ハ數箇ノ債權ヲ擔保スル爲ミニ同一ノ不動產ニ付イテ抵當権ヲ設定シタル場合ニ生ズル此場合ニ於テ其抵當権ノ順位ハ登記ノ前後ニ依

ルト定メテアル(第三七三條是ハ塞ニ當然ノ事デアラ)抵當權者々互ニ第三者デアル、民法ハ何故ニ此事ヲ明文ニ規定スルコトヲ必要上ニ冬然シニ疑フ位デアル思フニ此規定ヲ置カレタ趣意ハ順位ノ事ハ純然タル第三取得者ニ對スル效力ト看ルベキモノデナイ、又先取特權ノ順位ハ必ズシモ登記ノ前後ニ依ラザルコトト爲、テ居ルヨリシテ或ハ疑ヲ生ゼンコトヲ恐レタガ故ニ過ギスト思フ

第二款 抵當權ニ依フテ擔保セラルベキ債權

抵當權ハ元本ノ外利息其他ノ定期金ヲモ擔保スルモノデアル其理由ハ利息ナルモノハ通常一定ノ時期ニ拂フモノデアラ永ク其支拂フ延滞スルハ異例ニ属スルコトデアル、其レ故ニ利息ニ及ブモノトスベキハ當然ノ事デアル、唯是ニハ制限ガナクテハナラヌ、即チ久シキ前ニ遡ブテ一切抵當權ニ依フテ擔保セラルルモノトスレバ他ノ債權者ニ非常ノ損害ヲ被ラシムルコトト爲ル、故ニ原則上シムラハ最後ノ二年分ニ限り抵當權ニ依フテ擔保セラルムノトシテアル、其以前ノ分ニ付イテハ滿期後登記ヲ爲シタバトキニ限り其登記ノ時ヨリ抵當權ヲ行フ

引渡ス時ノ積ニ依ルヘキカノ點ナリ我商法ニテハ運送貨物額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ムハ第ニト規定セリ(第六〇八條)何故ニ此規定アルカト云フニ運送契約、民法並所謂請負契約ノ一種類ト認ムヘキモノニシテ諸負契約ニ於テハ仕事ノ結果ニ應シテ報酬ヲ與フルコトヲ原則トス船舶ヲ以テ物品ヲ運送スル當リテハ種種ナル事故ノ爲テ物品ノ容積又ハ重量ニ異動ヲ生スルヨト稀ナラス運送契約ニ依リテ履行ヲ完成シタル部分即テ運送ヲ終リタル部分ニ對シテ運送貨物請求セシムルヲ當然ト爲セハナリ而シテ我商法ノ規定ハ獨逸英吉利ノ制度ト同一ノ趣旨ニシテ佛蘭西ノ商法ニハ適切ノ明文アラサレドモ之ヲ駐釋スル學者ノ意見ニ依レハ運送品ノ重量又ハ積量が引渡ス際ニ於テ引受テ既ニ於ケルヨリ多カナシトキヘ引渡ノ時ノ重量又ハ容積ニ依リテ之ニ反シ引受ノ際ニ於ケルヨリ少カナシトキヘ引受ノ時ノ重量又ハ容積ニ依ルヘキモノト論セリ以上我商法ヲ規定ハ因ヨリ特約ナキ場合ニ適用セテ斯ル事ノミテ當事者カ反對シ契約ヲ結ス由ホラ得ルハ論ヲ喫ムナル所開スルハ運送契約ニ於テ合併提存合併等の項を要ス

第二、期間ヲ以テ運送貨ヲ定ムル場合、此場合ニ付キ第一ニ研究ヲ要スルハ何也、ノ時ヨリ期間ヲ起算スヘキ之ノ點也。第六〇九條我商法ニ於テハ運送品人船積著手ノ日ヨリ起算スルモノトシ爲セリ、各國ノ法律ニ於テ規定スル所ハ區區シテ或ハ船舶カ航海ヲ始メタル日ヨリ起算スル處アリ、英吉利佛蘭西伊木利人如キ是ナリ、或ハ船積準備ノ整頓シタル日ヨリ起算スル處アリ、西班牙ノ如キ是ナリ、或ハ船積準備整頓ノ通知アリノ日ノ翌日ヨリ起算スル處アリ、屬地ノ如キ是ナリ、此ノ如名各國ノ制度軌跡同様セス立法上何ニテ以テ最モ可ナムト爲セヤト云フ。ニ各一科一害又有ヌルモナカリ若シ英佛伊等ニ於ケル如タ航海ヲ始メタル時ヨリ算點ト爲ス、キテ、彼船積終了ノ上ハ船長ハ成然シ速ニ航海ヲ爲スコト又力メ運送ヲ迅速ニ圖ルコト得ベシト雖モ、備船者ニ於テ公其利益ニ適スル限り成ルベク、船積期間ヲ延ハサントスルノ傾ナキニ非サルヘシ、又西班牙若クハ獨逸ニ於ケル如タ船積準備ノ整頓シタル時期若クハ其通知ヲ爲シタル時期ニ依リ起算點ヲ定ムレバ、船長ハ發航ノ時ヲ後ビシヌシトスベキモ、備船者ハ船積必要スル日數ヲ成ルベク、シテ短縮スルモトニ領生益シシトスベキ。

ニ規定シタル所ハ各國ノ制度ヲ折衷シ期間ノ終期ヲ陸揚終了ノ時ト爲セルニ對シ船積著手ノ時ヲ計算ノ初ト爲シタルナリ、第二ニ研究ヲ要スルハ如何ナル日ヲ算入スルヤノ點ニ在リ、期間カ始マリタルトキハ、其終マテハ日數ヲ連續シテ計算ズルヲ原則トス、然レドモ、船積カ不可抗力ニ因ツ、發航港若クハ、航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲シタル日數並ニ、航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スルニ要シタル日數ハ、期間ニ算入セス、又船積期間若クハ、陸揚期間ノ經過シタル後ニ、船積又ハ、陸揚ヲ爲シタルトキハ、前節ニ述ヘタル如ク、備船者ハ相當ノ報酬ヲ受ケルヲ以テ此等ノ日數ハ、備船期間ニ算入セシメザルモノドス、然ラザレハ、船舶所有者ハ一方ニ於テハ、船積若クハ、陸揚遲滯ノ故ヲ以テ報酬ヲ請求シ、又一方ニ於テハ、運送貨ヲ請求ジ、二重ノ收入ヲ爲スコトト爲ルカ、故ナリ、第三ニ研究ヲ要スルハ期間ハ、何レノ日ヲ以テ終ルヤノ點ナルカ、此點ニ付スル各國ノ法律ハ殆ド一一致リ、即ナ我商法ニ定ムルカ如ク、陸揚終了ノ時ヲ終期ト爲スモノガナリ、則ハ左ニ運送品カ毀損セラレタル場合及ヒ運送品ノ目的港國ヲ到達セサル場合ニ於ケル運送貨ノ關係ヲ研究スヘシ、前節亦又ハ、背後人ノ運送品を運送スル事

(甲) 運送品カ毀損セラレタル場合 備船者又ハ荷送人ハ運送品カ毀損シタルノ故ヲ以テ運送貨ノ減額ヲ請求スルコト不得ナル。各國ノ法律ニ於テ毀損シタル所トス我商法ニ於テハ特ニ明文表示サヌト業モ解釋トシテ此原則ニ依ルコトハ運送契約ノ性質ヨリ觀察シテ明瞭ナリトス元來運送貨ハ運送引終シタルトキ之ヲ請求スルモノニシテ其請求ハ運送品ノ毀損セラレタルト否トニ拘ハルヘキニ非ス若シ運送品カ毀損セラレタルトキハ權利者ハ其原因ノ如何ニ依リ船舶所有者又ハ其代理人ニ對シテ之カ損害ヲ賠償セシムルコトヲ得ヘク毀損ノ事實ト運送ノ事實トハ全ク別種類ノ事項ニ屬シ須ク區別セオアヘカラシアル所トス故ニ運送品カ毀損セラレタル場合ニ於テ其毀損ノ原因カ船舶所有者若クハ船員ノ過失怠慢ニ出テタルト否トニ拘ハラス船舶所有者ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得ルト爲スハ當然ナリト謂ヘナルヘカラス外國ノ法律ニ於テハ運送品カ毀損セラレタル場合ニ船舶所有者ハ運送貨ノ代ニ毀損物品ノ委付ヲ受タル義務ナシトノ規定ヲ設クルモノナリト雖モ前ニ述ヘタル理由ヨリ觀レハ當然ノ事柄ニシテ特ニ法文ノ規定ヲ要セサルカ姪シ或ハ外國ノ商法ニ

於テハ流動體ノ漏出シタル場合ニ限リ之ヲ委付シテ運送貨ノ支拂ヲ免ルコトヲ得ヘシト規定シ或ハ尙キ之モリ廣々運送品ノ毀損カ船長ノ過失怠慢ニ起因スル場合ニハ毀損物品ノ運送貨ノ代ニ其物品ヲ委付スルコトヲ得ヘシトノ規定ヲ設クルモノナリキニ非サルモ我商法ハ前述ヘタ然如ク總ナ此類ノ規定ヲ認メサルモノトス
(乙) 運送品カ目的港ニ達セサル場合ニ此場合ニ關シテハ運送品カ到達セサル原因ノ如何ニ依リ船舶所有者ノ運送貨請求權ニ種種ノ差別ヲ生スルモノナリ左ニ其場合ヲ列舉シテ運送貨ノ關係ヲ説明スベシ貿易セラレタル事例ハ、
(一) 到達セサル原因カ備船者又ハ荷送人ノ指圖モ由ルトキ例ヘハ船舶カ目的港ニ到達セサル以前ニ備船者又ハ荷送人ノ指圖ニ由リ運送品ヲ陸揚セシメタル等ノ場合ハ備船者又ハ荷送人ノ爲メ運送ヲ完成セサルモノナリヘ船舶所有者ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ第六〇〇條又船長カ航海中ニ於テ利害關係人ノ利益ニ最も適不ル方法トシテ積荷ヲ販賣シタルニ因リ目的港ニ到達セサルコトアリ此場合ニハ船長カ積荷關係人又代理人トシテ法定ノ權限

(一) 依リ處分シタルニ起因シタルモノナレバ、備船者又ハ荷送人ノ指圖由リ運送品カ目的港ニ到達セサルトキト同様アルヲ以テ船舶所有者ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ。ニイニモ得ヘシ。第六〇〇號文體要並無中ニ似矣。

(二) 到達セサル原因カ運送品ノ滅失ニ在ルトキ此場合三付ノ六滅失狀原因如何ニ依リ更ニ區別ヲ爲ナシルベカラス。入ヘ置間ニ由リ運送品ヲ搬送する事。

(イ) 滅失ノ原因カ不可抗力ニ在ル時キハ船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス。若シ既ニ運送貨ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還セサルヘカラス。第三三六條例ヘ、航海中天災ニ因リテ積荷ノ全部ヲ流失シタル等ノ如キ場合ハ即チ是ナリ。其後に關する事、重宝品を除く外、其遺品を受取リ。

(ロ) 滅失ノ原因カ運送品ノ性質若クハ瑕疵ニ在ルトキ並ニ備船者若クハ荷送人ノ過失ニ在ルトキハ船舶所有者ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ。其後に運送品を受取リ。

(ハ) 滅失ノ原因カ船舶所有者若クハ船長ノ過失怠慢ニ在ルトキハ船舶所有者ハ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス。

(三) 到達セサル原因、船舶不沈沒、修繕不能、捕獲ニ在リ其事實カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ運送シタル割合ニ應シテ運送貨ヲ請求スルコトヲ不得ヘシ。尤モ此場合モハ多クハ運送品ハ毀損セラレ著シク價額ヲ減スルヲ以テ若必ス運送シタル場合、運送貨ヲ支拂フヘキモノトセハ或ハ支拂不ベキ。運送貨ガ運送品ノ價額ニ超過スルコトカキヲ保ケテ果シテ然ラバ備船者若クハ荷送人ハ頗ル不利益ノ地位ニ立カズト爲ルヲ以テ此外如キ場合ニベキ備船者若クハ荷送人ハ運送品ノ價額ヲ限度トシテノミ運送貨ヲ支拂フヘキモノトセリ。第六一三條以下ハ此種大過失ニ因リ候事。

(四) 到達セサル原因が船長ノ法定の權限内ニ於ケ運送品ヲ處分シタルニ起因シタルトキ即チ船長カ第五百六十八條ニ依リ積荷ノ全額又ハ一部ヲ賣却シ又ハ之ヲ質入シタル場合第五百七十二條ニ依リ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタル場合第六百四十一條ニ依リ船舶及シ積荷在共同之危險ヲ免レシムル爲ノ積荷ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於ケ船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シテ運送貨全額ヲ請求スルコトヲ得ス。以上列記諸タル各種ノ場合ニ於ケハ備船者又ハ

荷送人ハ處分ナシタル運送品ニ對スル損害ノ賠償ヲ受クルモノニシテ其額ハ
陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價額三依ル定メタル時亦運送貨支拂ハシムルヲ當然トス
セラルヲ以テ船舶所有者ニ對シ全額ノ運送費ヲ支拂ハシムルヲ當然トス
セラルヲ

第七節 運送契約上ニ於ケル船舶所有者ノ責任

船舶所有者ハ運送契約ニ依リ運送品ヲ相當ノ期間内ニ契約ニ定ムル場所ヤト
運送スルノ義務ヲ負フモノナリ惡意アルトキハ勿論過失怠慢ニ因リ相手方ニ
損害ヲ及ホシシタルトキハ之ヲ賠償スルノ責ニ任セサルヘカラズ唯リ自己
ノ行爲ニ付タノモカラス船長海員其他使用人ノ行爲ニ付テモ損害ヲ生セシメ
タルトキハ賠償ノ責ヲ免ムルコトヲ得サルモノトス船舶所有者ノ積荷關係人
ニ對スル責任ハ沿革上ヨリ之ヲ觀ルトキハ往ハ頗ル嚴重ナリシモ近來漸次
ニ寛大ニ赴ケル傾向アリ船舶所有者ノ積荷ニ對スル責任ハ何故ニ嚴重ナラシ
メナルヘカラサルカト云フニ借船者又ハ荷送人カ運送ノ爲メニ物品ヲ引渡シ
タルトキハ其保管一切ハ船舶所有者又ハ其代理人タル船長ニ委シ自ラ之ヲ監

ナセ否キハ我破產法ノ解釋上ノ所ナハ疑問ニ屬スレトモ獨逸破產法ニ於テハ
六十二條第一號ニ依然消極的ニ論結スルニ似然リ以上ノ法則ハ刑事ノ訴訟費
用並開示テ亦行ハバ何事ノ間也刑事ノ訴訟費用賠償權ハ其之カ負擔ヲ言渡ル
無ル判決ニ因リ發生スル矣在非力也然而既にセ破產手續開始後ニ於テ
爲シタル行爲無因リ生シタル所訴訟費用賠償權殊無破產手續ニ參加シ莫ニ固
リ各破產債權者ニ生シタル訴訟費用旅費ノ如キ賠償權ハ破產債權者科爲ラス
(商法第一〇三二條第一項第一號)何トガレ此道ノ破產宣告前ニ發生シタル所モ
人ニ非ガルヲ以テ破產債權ト謂アコトヲ得考核極力ア立法上ノ理由ト以テ之
ヲ認ムルトキハ破產手續ニ於テ不當並債權ヲ擴張シ異議ノ原因ナリ爲ル虞アル
蓋以之方法上云ス者アリ又債務者ノ財産ヲ給付ノ目的トスル債務不履行モ
甚烈損害賠償債權者破產宣告前ニ債務者ノ本旨ミ從ヒ履行期ニ爲力ナシ
場合ニ限リ破產債權ト爲何トかレバ債務者其有ナシ財産ヲ付拂ハ破產宣告
後處分權又喪失スル結果既經考爾後債務不履行ナシ事實方到來スル理外
猶然然れども債權者其能爲不作為即即的賴ナシ債務者不履行事基外損害

賠償權、債務者カ破産宣告前ニ債務未履行ノ缺點少所場合ニ於テ破産債権
ヲ主張スルコトヲ得、破産宣告後債務ノ不履行アリタル場合ニ於テ破産債権
トハ言フエタス何トナレハ斯ル債務ノ不履行ニ基ク損害賠償權、未償權
其同タル實行未定及請求權(Entitled responsibility)ニシテ又債務者カ破産宣告後
雖在、其自由ヲ喪失セナルヲ以テ爾後斯ル債務ノ不履行ナル事實到来スルコト
アリハナリ隨テ「ボクセルト氏」ノ如ク債權者ハ債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル
當時ニ於テハ單ニ作爲、不作爲目的トスル權利即テ破産債権ニ非カル權利ヲ
有セズニ過キス破産宣告後ニ於ケル破産者ノ債務不履行ニ基ク損害賠償權、
破産宣告後ノ發生ニ係ルモノカルヲ以テ破産債権ニ非ムト在理由ヲ以テ反對
論結スルハ正當ノ見解ニ非ナルヘシ債務者カ債權者ニ返還スルキ自己人財
產ニ屬セサル物件例へハ貸借物ノ破産宣告前ニ毀損シ若クヤ滅失シタルニ因
リ債權者カ取得シタル損害賠償權、或破産宣告前ニ成立シタルモノナルヲ以
テ破産債權タルヤ當然カルモ債務者カ破産宣告後ニ於テ該物件ノ毀損シ若
クヤ滅失シ爲ヌモ債權者カ取得シタル損害賠償權ハ破産債権ト爲ヌモ蓋シ債

權者ハ債務者カ破産宣告ヲ受ケタル當時ニ於テハ單ニ該物件ニ關シ取戻權ヲ
有スルニ止マレハナリ隨テ斯ル債權者ハ尙ホ民法ニ從ヒ破産宣告ノ當時ニ於
テ既ニ成立シタル實行未定ノ損害賠償權ヲ有ストノ見解ハ正當ニ非ナルヘシ
(第四ニ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ目的トスル契約カ成立シタル
後ニ於テ債務者カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ第三者ハ債務者ニ對シ其破産宣
告前ニ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル場合ニ限り給付ヲ請求スル權
利カ破産債権ト爲ル(民法第五三七條、第五三八條反對ノ場合ニ於テハ債權者カ
債務者ニ對シテ有スル權利カ破産債権ト爲ル隨テ配當額ハ之ヲ債權者ニ交付
シ第三者ノ爲メニ供託スヘキモノニ非ス何トナレハ第三者ハ債務者ノ破産宣
告後ニ於テ民法第五百三十七條第二項ニ規定シタル意思ヲ表示シタルモ爲シ
ニ給付ヲ請求スル權利ニ付キ破産債権者ト爲ラナルヲ以テナリ又手形上ノ權
利ハ振出人ニ對シテハ手形ノ振出ニ因リ引受人ニ對シテハ手形ノ引受ニ因リ
又裏書人ニ對シテハ手形ノ裏書ニ因リ成立ス故ニ手形上ノ權利ハ破産シタル
振出人ニ對シテハ振出カ破産宣告前ニ存シタル場合ニ限リ破産シタル引受人

ニ對メテ引受カ破産宣告前ニ存シタル場合ニ限リ又破産ガタビ裏書人受對
シテガ裏書カ破産宣告前ニ存シタル場合ニ限リ破産債權トシテ之ヲ主張スル
コトヲ得ヘシ此等ノ者カ破産宣告ヲ受クル當時ニ於テ手形ヲ所持シテ者即破
産債權者トシテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ルハ勿論ナシトモ其後者若クヘ其
前者手形ヲ償還シタル亦破産債權者トシテ其權利ヲ主張スルドモ得ムニシ
シ後者被裏書人若クハ所持人ハ破産宣告前ニ於才既ニ發生セバ手形上ノ權利
ヲ取得シタルニ過キス換言スレハ手形ノ讓渡ニ讓受人ノ爲メニ新オル權利ヲ
發生カシムルモノニ非ス惟債權讓渡ト同シタバ權利者ノ變更ニ外ナラズヤカ
タ又前者カ手形ノ償還ニ因リテ再ヒ手形ヲ所持スグニ至リタバ事實が斯才既
權利ノ取得ニ非シテ反テ手形ノ讓渡ニ因リテ喪失ナル償還請求權ノ實行
ノ條件ヲ成スモノナルヲ以テナリ商法第四九五條面シテ引受ニ振出人ノ署名
其他手形ノ完成ニ必要ナル内容ノ存シタル後ニ爲スヲ通常トスルニ法律セ
引受ト振出トニ付キ前後ニ差異アルヲ要スル旨ヲ明示キタマツリテ引受ノ無
ニ振出ヲ爲スモ爲メニ引受ノ無效ヲ來スモノニ非ス故ニ引受人ハ完成シタバ

手形ノ引受ヲ爲シタル場合金利洞シタ義務ヲ負ヒ引受ヲ得タム者及主其後者ニ
對シ引受後ニ手形ノ完成シタル理由ヲ以テ義務ヲ免ルルコトヲ得ナルナリ此
法理ハ引受人カ破産宣告ヲ受ケタルカ爲メニ變更スルモノニ非ス體ハ破産宣
告前ニ引受ヲ爲シタルニ因リ引受人ニ對シテ發生シタル手形上ノ權利ハ維命
其手形ノ完成ニ必要ナル内容カ引受人ノ破産宣告後ニ存シタル場合干於テモ
破産債權タムニ妨ナシ換言スレハ斯ル引受ニ基ク請求權ハ一ノ停止條件附帶
利ニ外ナラス蓋シ引受ヲ爲シタル者ノ手形義務ノ成立ハ引受ヲ爲シタル書面
ヲ所持スル者ノ書面(手形ト爲シ)ノ作成ニ繫シハセヨリ實ニ當ル者ナシ
破産債權タムハ以上ノ要件ヲ具ウルヲ以テ足レントシ權利ノ目的カ前定メ
金額ノ支拂ニ存スルコトヲ必要セシム然シトモ前述ノ如ク破産債權各財產保全
錢的價額ヲ標準トシ損失ノ分擔ヲ實行シルカ手續ナルヲ以テ破産手續を參加
スル債權者ハ其請求權ヲ特定フ金額我帝國之貨幣ヲ用ヒトモ勿論ナリソ東洋セ
テ滿足セラシタル所シテ主張スルコト要本ノ實旨即タ以是ヲ舉シ特定
ノ金額ノ支拂ヲ目的外モサル財產上ニ請求權殊ニ前定物若連合代替物ヲ引當

ヲ目的トシ他物權ノ設定ヲ目的とする債權ノ讓渡ヲ目的尋移我帝國之通貨ニ非
サル金額外國ノ通貨ノ支拂ヲ目的トシ若クハ不行爲ヲ目的トスル權利破産宣告ノ當時ニ
於テ未タ數額ヲ確定セナル損害賠償權及セ破産宣告ノ當時ニ於テ未タ金額ヲ
確實ト爲ラナル財產上ノ請求權殊ニ不確定ノ期間例へ生存期間ヲ如キ若少
ハ不確定ノ金額ノ重複的給付ヲ目的トスル權利前述ノ説明參考ハ破産宣告ノ
當時ニ於ケル評定ニ依リテ金錢的價額ヲ定ム此評定價ニ關シテハ法律上何等
ノ明文ナシト雖モ破産債權者カ其破産手續ニ於ケル届出ニ於テ評定價ヲ表示
シ債權調査會ニ於テ異議アルトキニ訴フ以テ確定スヘキモノナルヤ當然ナリ
而シテ斯ル評價ハ破産手續ニ參加スルカ爲メニ必要ナル手段タルニ止マリテ
特定ノ金額ノ支拂ヲ目的トセサル債權ヲ金錢債權ニ變更スルノ效力ヲ有スル
モノニ非ス故ニ斯ル評價ハ唯破産ノ爲メニゾミ效力アルニ止マリテ共同債務
者ノ義務ニ影響スル所ナシ

(二) 多數當事者ノ債權連帶不可分保證手形等ノ如キ法律關係ニ因テ同一ノ

給付ニ付キ相並ヒテ責任ヲ負フ債務者カ破産ノ宣告ヲ受クタル場合ニ於テ其
債權者カ破産債權者シテ主張スルヲ得ル範圍ハ二人以上ノ共同債務者者破
産シタル場合トニ分テテ说明スルヲ便宜トス左ニ之ヲ分説スル
(A) 二人以上ノ共同債務者カ同時又ハ順次生破産シタル場合 此場合ニ於テハ
債權者ハ各債務者ハ破産シ於テ其宣告ハ當時ニ於テ有スル債權ハ全額ニ付キ
届出アリハスヨト得商法第一〇三六條破産法第六八條瑞西破産法第三
六條(1) 債權者カ各債務者ハ破産シ於テ破産債權者ドシテ其權利ヲ主張スル
ドヲ得ルハ債權者カ共同債務關係ノ效果同シテ各債務者ヲ唯一の債務者タリ
夫如ク三取扱フヨリ不得ル故ナリ(民法第四四一條、第四三〇條後段スルニ債
務者ハ同時ニ共同債務者ノ全員ニ對財債權全額ヲ請求ヲ爲スヨリ得又共同
債務者ハ其債務を完済アル事至ルヤシハ債務ヲ負フセリザレガナリ)破産法
第四三六條(支拂員立ナル如麥)拒絶證書を作成シタル手形又引受人及ビ所持
夫ノ前項一項並且て責任ヲ負フモ猶大レハ手形上之權利者ハ該引受人及ビ前

者ノ破産ニ於テ届出者爲スルトア得ルヤ言ニ堵タス但保證人無民法第五百五
十二條及上第四百五十五條並規定某所抗辯權利有ルルト主タク債務者
相並ヒテ責任を負ヌルメニ非ヨシテ主タク債務者カ其債務ヲ履行セラシ後
於テ責無任スルモナレトモ主タク債務者カ破産シタルモナハ斯ル抗辯權利
失ルト以テ主タル債務者ト相並ヒテ責任を負ムセリト爲ル故ニ主タル債務者
及ヒ保證人カ破産シタル場合ニ於テハ債權者ヘ此兩者人破産ニ參加スルコト
ヲ得(2)債權者カ共同債務者ノ破産宣告在當時ニ於テ有スル債權全額ヲ付キ届
出ス爲スコトヲ得ルカ債權者カ二人以上ノ共同債務者カ破
前モ於テ第三者若クハ其同債務者ヨリ又ハ其破産財團上ヨリ受取タル一部
辨濟額ヲ控除シテ届出ス爲ス(3)モ主義免除主義(4)二人以上ノ共同債務者カ破
產宣告ヲ蒙ケタル以後ニ於テ受取りタル一部辨濟額ヲ届出債權額ヨリ控除セ
スシテ届出ヲ繼續セシム所メ主義繼續主義(5)認ムタクカ爲スナリ(6)債權者カ
二人以上ノ共同債務者カ破産宣告ヲ受タル以前モ施テ共同債務者ヨリ(後日)
產宣告ヲ受タルモ人カムト否ト別問ズ又モ其破産財團上ヨリ一部辨濟又

從ヒテ執行スルコトヲ得ナレハナリ故ニ訴ハ却下ノ判決、確認判決、數額ヲ定メ
シシテ損害賠償ノ義務アリ旨イミヲ言渡シタル判決執行處分ノ停止ヲ命シテ
ル判決第五〇一條第四款第五五〇條第一號此種ノ判決ハ強制執行ヲ爲スニ適
當ナル判決ニ非シシテ却テ強制執行ヲ停止スル判決ナリ(7)執行スベキ義務人目
的物ハ特定的表示ヲ缺キタル判決例ハ給付ノ種類及ヒ數量ノ特定表示ナキ
判決數多ノ債務者ニ對スル共同責任關係ニ付キ分擔部分ノ特定的表示ナキ判
決ノ類但此種ノ判決ハ爾後新訴ヲ以テ確定スルニ因リ執行シ得ヘキモ判決
ト爲ルハ執行ニ不適當ナル判決ナリト謂フ(8)然シトモ民法上適當シテ且
民事訴訟法第五百十八條第二項、第五百二十九條ノ規定ニ則リテ爲タル判決
ハ條件ノ成就若クハ期限ニ到来ニ因リス執行シ得ヘキ判決ト爲リ又債務者
給付カ債權者イ反對給付若クハ擔保給付ニ繫ル判決モ亦民事訴訟法第五百十
八條第二項ニ從ヒ執行シ得キ生ノナリ事實上執行ヲ爲スニ不適當ナル終局
判決ニ對シテ不裁判所の執行文ノ付與ヲ拒メコトヲ得ルカ否ク予誓ハ我民事
訴訟法ノ解釋上第第三章ノ以テ積極的モ論スルト正常大儀モト單獨過民事

訴訟法ニ於テム第六百四十四條第二項及ヒ第六百五十八條ヲ如キ明文アル事ナシテガウテ民ハ消極的ニ論結シタルニ法律上強制執行ヲ爲スニ適當かル時局判決ト、民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ形式的ニ確定シタル又ハ假執行ハ宣言ハシル終局判決ナリ第四七條但民事訴訟法第五百十條第一項ノ規定ニ基キタル判決及ヒ假差押並ニ假處分判決第七四九條、第七五六條第七四四條第三項ノ例外トシテ假執行ノ宣言ナダシテ直チニ執行スルコトヲ得ルキ終局判決ナリ蓋シ此種ノ判決ニ關シテハ法律ハ明示的(前者ノ判決又ハ默示的)後者ノ判決即時執行力ヲ認メタレニナリ左ニ(1)判決ノ確定ト(2)其假執行ノ宣言トヲ分説スベシ第一判決ノ確定は終局判決ノ確定ナリ故ニ判決が確定シタルトキハ更正訴訟關係ノ再理ハ判決ニ依リテ遡クルコトヲ得サル時ガラス之ヲ換言ヌレハ訴訟關係ノ正則的終局ハ判決ノ確定ナリ故ニ判決が確定シタルトキハ更正訴訟ナリテジムルコトナク當事者ヲ轄束シ又判決ニ於テ認メタレタル事物ヲ實在

的滿足ヲ權利者ニ享有セシム此效力ハ裁判所ニ繫屬シタル訴訟が確定的終局シタル時即ち判決カ適法ノ上訴若クハ故障シ因リテ廢棄若クハ變更セシムシコトナキニ至リタル時ニ發生スルモノタリ學說上外部ノ確定力若クハ形式的確定力ト稱スルモ即チ是ナリ此效力ヤ一方ニ於テハ原則上判決ヲ執行シ得ヘキモノトス第497條他メ一方ニ於テハ裁判ヲ以テ認定シタル法律關係カル後當事者ノ遜寧スベキモノト爲リ當事者ニシテ之ヲ變更スルコトヲ得セシメタルノ效力ノ生ス隨テ當事者ノ一方カ之カ變更ア試ミタルトキハ他メ一方ハ裁判確定ヲ理由トシ即チ一事不再理ノ抗辯共基キ直ちに變更ニ關スル企圖ヲ裁判上排斥スルコトヲ得是ヲ以テ當事者ハ確定シタル裁判ニ因リテ認定セラレタル法律關係ヲ爾後有効ニ訴訟ヲ以テ争フコトヲ得ス又確定シタル裁判ニ因リテ否認セラレタル法律關係ヲ爾後有効ニ主張スルコトヲ得ス其他訴訟ノ當事者ハ敗訴ノ當事者ニ對シ確定裁判之内容ニ於テ認メランタル請求權ノミヲ有シ確定裁判以前ノ狀態ニ於ケル請求權ヲ更正新訴ヲ以テ主張スルを得ス又敗訴ノ當事者ハ確定裁判ニ於テ認メラビタル義務ヲ從前ハ法律開

係キ基本ニ争フコトヲ得ス學說上之ヲ内部ノ確定力若ク實體的確定力奉爾
 又(第二四四修改)判決ノ形式的確定ハ判決の執行力及モ實體的確定力ヲ前提
 要件タリ是レ予輩カ各終局判決ハ原則上形式的確定且因リテ執行シ得ム者事
 ベト爲ルト云フ所以ナリ此又如ク各終局判決ハ形式的確定ニ因リテ執行シ得
 ヘキモノナル故ニ形式的確定ノ發生スル時期ト其證明方法トヲ知ルハ極メ
 ナ必需要ナリ左ニ之ヲ分説スルシト以て當事者ハ訴訟ノ起訴時ニ固リ未審理
 (ア)形式的確定ノ發生期限各終局判決ニ對席判決ナム上開席判決ナルトニ従
 ハ各其確定力發生ノ時期ヲ異ニセリ對席判決ニ關シテ之ヲ言ヘハ適法ナル上
 訴方口頭辯論期日ニ出頭シタル當事者雙方ニ若クハ其一方ニ法律上許ナルル
 間ハ判決ノ形式的確定ノ發生ヲ停止ス是ニ形式確定ノ意義ヨリ生スル當然の
 結果ナリ然レトモ上訴ニ非ナル不服申立方法即チ再審及ヒ原狀回復ノ申立ア
 為シ得ルコトニ判決ノ形式的確定ノ發生ニ影響ヲ及ボス所ガク却テ此
 等ノ不服申立方法ハ判決カ形式的ニ確定シタルヨトヲ前提要件トス第四九八
 條第五〇〇條、第四六七條面シテ確定判決ガ再審及ヒ原狀回復ノ申立ニ因リテ

取消ナルトキハ既往ニ對シテモ其效力ヲ生スルモノタルコトハ言ヲ換タナ
 ル所ナリ是ヲ以テ(第一)ニ上訴ヲ許ナカル判決ハ言渡ニ因リテ確定シ判決正本
 ノ送達ハ之ヲ必要トセス何トナレハ此場合ニ於テハ判決ノ送達ヨリ開始スヘ
 キ上訴期間ナルモノナケレハナリ(第四〇〇條第一項第四三七條第一項)唯判決
 正本ノ送達ハ強制執行ノ爲ニ必要ナルノミ(第五二八條上告審ニ於テ言渡シ
 タル對席判決(第四五二條上告人ノ陳述ニ對スル判決第四三九條訴訟費用ノ
 ニ付ナノ判決(本案カ和解取下若クハ任意履行ニ因リテ終局シタルヲ以テ單一
 費用ニ付キ爲シタル判決)免シノ訴訟法ニ從ヘハ勝訴ノ原告ニ訴訟費用全部ヲ
 負擔セシメタル判決ノ如キ之ニ屬ス)ノ如キ言渡ニ因リテ確定スル終局判決
 ノ最モ重ナルモノナリ(第二)ニ上訴ヲ許ス判決ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定
 メタル期間ヲ滿了ニ因リテ即チ當事者カ適法ニ上訴ヲ提起セスシテ上訴期間
 ハ經過セシメタルニ因リテ確定ス(第四九八條第一項)第(三)ニ上訴ヲ許ス判決ハ
 當事者ノ行爲即チ上訴ヲ取下若クハ上訴權ヲ棄棄ニ因リテ確定ス何トナシハ
 斯ル當事者ノ行爲ハ何シモ上訴權ヲ喪失シ上訴ヲ許ナカルノ結果ヲ生ムルヲ

以テナリ(第二六四條第三九九條第四五四條第二號第四〇五條然シトモ當事者雙方カ上訴權ヲ拠棄若ク上訴ノ取下ヲ爲シタルヨキモ非スン)が際時メ形式的確定ヲ發生セナルヘシ何ミナレハ當事者ノ一方カ上訴權ヲ拠棄シ若クハ上訴ヲ取下タリト雖モ他ノ一方ハ尙ホ上訴ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ拠棄又取下ヲ爲シタル一方ハ仍ホ附帶上訴ヲ爲シ得ヘク(第四〇五條第四四二條)第四百五條ニ於テハ控訴ノ取下ニ關スル明文ヲ缺クト雖モ理論上上訴ノ取下カ上訴權ノ拠棄ヨリ不利益カル效力ヲ發生スヘキノ理由ナキヲ以テ上訴取下ヲ爲シタル當事者ト雖モ附帶控訴ヲ爲スノ權アリト論結セサルヘカラス體ヲ判決ノ形式的確定力ハ當事者雙方間ニ存在セランハナメ附帶上訴權ヲモ併セテ拠棄シタルトキハ其拠棄者ノミカ上訴ヲ爲シ得サルニ止マグ隨テ片面ナガ形式的確定アルニ止マリ強制執行ノ前提要件タル形式的確定即テ當事者間ニ法律ニ等シキ效力アリト認ムルコト能ハナクシ關席判決ニ關シテ之ヲ言ウ(第一ニ)ニ故障ヲ許サル關席判決ハ若シ上訴ヲ許サルモノナル未キ々上訴期間ノ經過ニ因リテ確定ス(第一七七條第二項第二六三條第三項第三九八條但書)而

シテ上訴期間ニ故障期間ヨリ長期ナムリ以テ故障ニ依リテ不服申立ヲ爲シ得ナル關席判決ノ確定ハ故障ニ依リテ不服申立ヲ爲シ得タルヲ引スルラ奇觀アリスルニ至ルヲ以テ法律ハ此種ノ關席判決ヲ第二ノ關席判決ドシテ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スルヲ得セシム實際的ニ此奇觀ニリ生スル實效ナガラシムルコトト爲シタリ(第五〇一條第三號若シ上訴カ許サレタルモノナルトキハ言渡ニ因リテ確定ス上告審ニ於テ爲シタル新關席判決ノ如キ即チ是ナリ(第二六三條第三項)第二ニ故障ヲ許ス關席判決ノ起並ニ適法ナル故障ノ申立ニ因リテ遮断セラル(第四九八條第二項)是レ判決ノ形式的確定ノ意味ヨリ生スル當然ノ結果ナリ形式的確定ノ判決ノ形式的確定ノ意義ヨリ生スル當然ノ結果ナリ上訴狀若クス故障申立書ニ於テ判決ノ全部ヲ攻撃ノ目的トシテ表示セラムタル場合ム勿論其一部分ヲ攻撃ノ目的トシテ表示セラムタル場合モ亦然リ其理由ハ先

ツ、適法ナル上訴ニ關シテ之ヲ言ヘバ上訴ヲ提起シタル者ハ上訴状ニ於テ表示セラビタル不服申立ノ範囲ニ拘ガラス未タ上訴權ノ拡張等ニ依リテ判決ノ一部分カ確定セサル以上ハ口頭辯論終結マテ前審判決ノ全部ニ付キ上訴ヲ提起スルコトヲ得ベタ(控訴審ニ差戻アリタル場合ニ於テモ第一審判決ノ全部ニ付キ控訴ヲ擴張スル)妨ト爲ラス(第四〇一條、第四三八條又相手方ハ自己ノ不利益ニ歸シタル部分即チ上訴提起者ノ利益ニ歸シタル部分ニ關シテハ権利上訴期間ヲ経過シタル後ト雖モ仍ホ有效ニ附帶上訴ヲ爲スコトヲ得ルヌ以テナリ)第四〇五條第四四二條而シテ民事訴訟法第五百九條ハ上訴ヲ以テ不服ア申立ヲオル部分ニ限リテ假執行ノ宣言ヲ付スヘキ旨ヲ規定シ以テ間接ニ前ニ示シタル法理ヲ證明シタリ、適法ナル故障ニ關シテ之ヲ言ヘバ前審ノ開庭判決ノ一部分ニ付キ故障ヲ申立ヲタル者ハ其不服申立ノ範囲ニ拘ガラス口頭辯論終結ニ至ルマテハ故障ノ申立ヲ判決全部ニ付キ擴張スルヲ得ヘキヲ以テナリ民事訴訟法第二百七條及ヒ第二百二十八條并所謂終局判決ト看做スヘキ中間判決ヲ爲シタル場合ニ於テ其中間判決カ確定ナル以上ハ本審の終局判決ハ

総合形式的ニ確定スルモ執行シ得ヘキモノト爲ラス何トナレハ此場合ニ於テハ本審ノ終局判決ハ先ニ言渡シタル中間判決ト共ニ一ノ完全ナル判決ヲ成ヌモノナルヲ以テ中間判決カ上訴ノ結果變更若クハ破毀セラレタルトキハ當然其效力ヲ失フヘケンハナリ而シテ中間判決ノ確定ノ存否ハ執行文付與ノ際ニ之ヲ調査スヘキモノトス、通法ナリ上訴ノ提起及ヒ適法ナル故障ノ申立ノミカ判決ノ形式的確定ノ發生ヲ遮断スル反故ニ不適法ナル上訴ノ提起及ヒ不適法ナル故障ノ申立ヘ之ニ反ス且謂ハサルヘカラス蓋シ此場合ニ於テハ單ニ不適法トシテ上訴及ヒ故障ヲ棄却スヘキモノナレハナリ又共同訴訟ニ於テハ合一的確定ノ場合ニ限リテ當事者一人カ上訴又ハ故障ヲ爲シタルニ因ツテ他ノ當事者ノ爲メニ判決ノ形式的確定ニ付キ争アレントキハ當事者ハ舉證責任ノ原則ニ適法な證據方法ト義理別無之ヲ證明セサル所ヘラス其證據方法ト

シテ判決ノ形式的確定ニ關スル官廳的證明書ヲ法律上存セシムハハ極メテ必
要ナリ何トナレハ之ニ依リテ相手方ハ參與カタシノ容易ニ有効ナガ判決確定
ノ證據ヲ作成スルコトヲ得ルカ故ナリ是ヲ以テ我民事訴訟法ニ於テ判決ノ形
式的確定ニ關スル官廳的證明書ヲ付スル規定ヲ設ケタルハ立法上正當ナリ(第
四九九條)官廳的證明書ヲ設ケタルハ立法上ノ理由判決ノ形式的確定ノ證明書ハ
強制執行ニ關シテハ全然不必要ナリト謂アベシ何故ナハ強制執行ハ唯執行
文ヲ付シタル判決ニ基キテノミ之ヲ爲シ特ニ判決ノ形式的確定ニ關スル證明
書ヲ必要トセオ又假執行ノ宣言ニ依ラシシテ即チ判決ノ形式的確定ニ依リテ
付與シタル執行文ハ廣義ニ於ケル判決ノ形式的確定ノ一ノ證明書ニ外ナラオ
レハナリ然ルニ我民事訴訟法カ獨逸ノ民事訴訟法ト共ニ第六編強制執行ニ於
テ判決ノ形式的確定ニ關スル證明書三付スル規定ヲ設ケタルハ畢竟該規定ハ
判決ノ形式的確定ノ規定ニ從屬スルモナガルヲ以テ判決ノ形式的確定ニ關ス
ル規定ノ次位(第四九八條)ニ於テ判決ノ形式的確定ニ關スル證明書ニ付クノ規
定(第四九九條)ヲ設ケタル矣ノト思惟セラル(條文ノ位罝)判決ノ形式的確定ノ證

明書ハ主トシテ強制執行停止ノ要求(第五五〇條)身分關係ノ確定戸籍法第七九
條第九二條)外國ニ於ケル強制執行(第五一四條)第五一五條配當手續ノ實行(第六
三八條)供託物返還ノ要求其他民事訴訟法(第二百七條)第二百二十八條ノ場合ニ
其適用フ見ル然レトモ判決ノ形式的確定ノ證明書ハ執行文ヲ付與スル場合ニ
塞モ必要ナシ蓋シ裁判所書記ハ執行文ヲ付與スルニ當リテ判決ニ假執行ノ宣
言ナキ止キハ記錄ニ基キ判決カ形式的ニ確定シタルヤ否ナリ調査シテ上訴ノ
提起ナキヨト明確ナルニ非スンハ執行文ヲ付與セス又斯ル調査ヲ爲スコトヲ
得ナル場合ニ於テハ民事訴訟法第四百九十九條末項ニ規定ナシテ上級裁判所ノ
中間證明書ノ提出ヲ要求スルコトヲ得ヘタレハナリ判決ノ形式的確定ノ證明
書ハ當事者ノ申請ニ因リテ民事訴訟用印紙法第一〇條其當時訴訟記錄ノ現存
スル裁判所ノ書記カ此記錄ニ基キテ之ヲ付與ス何トカレハ判決ノ正本送達證
書ハ訴訟記録ヲ保存スル第一審裁判所ノ書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與シ
シテハ訴訟記録ヲ保存スル第一審裁判所ノ書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與シ

〔訴訟記録ハ通常第一審裁判所ニ於テ保存スヘキモノナルコトハ第四百三十一條第二項第四百五十四條第八號ニ依リテ明白ナリ〕變則トシテハ訴訟カ上級審ニ繫屬シタルトキハ其結果トシテ訴訟記録ノ現存ベキ又ハ現存スル上級裁判所ノ書記カ之ヲ付與ス(第四十九條第一項第二項)而シテ判決ノ確定ヲ證明書付與ハ裁判所ノ職權ニ屬セシテ裁判所書記ノ職權ヨリ觀察シテ之ヲ定メサルヘカラス此觀察ニ基ク訴訟ノ上級審ニ於ケル繫屬ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルノ基本タル訴訟記録カ證明書付與申請ノ當時其申請ヲ爲シタル上級審ノ書記課ニ現存スヘク又ハ現存スルニ因リテ成立スルモノト謂フヘシ故ニ此意義ニ於ケル繫屬ハ他ノ訴訟ノ繫屬ト同シテ上訴状ノ提起ニ因リテ開始スルモ第四百三十一條第二項、第四百五十四條第八號ニ依レハ訴訟記録ハ上訴ノ提起ニ因リテ上級審ニ送付スヘキヤ明白ナリ^{トシテ}之ト異ニシテ判決ノ確定等ニ因リテ終結セスシテ反テ記録ノ返還ニ因リテ終結ス體テ裁判所ノ権限並ニ之ト共ニ審カ終局シタルニモ拘ハラス仍ホ存續スルコト知ルヘシ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定

ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス(第四十九條第二項判決ノ確定ト爲リタル部分トハ確定シタル下級審ノ一分判決確定シタル上級審ノ一分判決其他上訴ヲ以テ攻撃セラレタル前審判決ノ一分カ上訴ノ取下又ハ上訴權ノ拋棄ニ因リテ確定シ或ハ和解ニ因リテ確定シタルカ如キ場合ヲ指示スルモノナリ但前審判決ノ一部ニ付キ上訴ノ提起アリタルトキハ尙ホ全部ノ確定ヲ遮断スルコト前述ノ如クナルヲ以テ此場合ニ属セザルヤ當然ナリ上級審ニ於ケル繫屬ハ訴訟記録ノ返還マテ存續スルヲ以テ上級審ニ於テ爲シタル判決ノ確定ニ因リテ訴訟事件カ全部終局シタルモ判決ノ正本作成其他公正手續ノ存續等ノ原因ニ由リテ訴訟記録カ未タ前審ニ返還セラシタル以上ハ上級裁判所ノ書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與スヘキヤ言ヲ埃タスト雖モ上級審ニ於テ訴訟事件カ和解上訴ノ取下上訴權ノ拋棄等ニ因リテ終局シタルトキハ縱合上訴權ノ喪失及ヒ上訴費用ノ負擔ヲ判決ヲ以テ言渡サシムヘキ被上訴人ノ權利ニ關係ナク訴訟事件ノ終局ト同時ニ上級裁判所ハ書記ノ判決確定ノ證明書付與ニ關スル權限ヲ消滅セシムルモノナリト云ヘル學者アリ獨逸ノ「ガウブ民ノ如キ即

チ是ナリ予輩ハ法文上何等ノ區別ナキヲ以テ此等ノ場合ト雖モ訴訟記録カ未タ前審ニ適法ノ原因ニ由リテ返還セラレナル以上ハ仍未上級裁判所ノ書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與スヘキモノト信ス(第四九九條二項)判決確定ノ證明書付與申請者及ヒ之ヲ付與スルノ機關裁判所書記ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スハニ際シテ其付與申請者カ如何ニシテ證明書ヲ必要ト爲スカノ理由ヲ調査スヘキモノニ非ス何トナレハ法律ハ之カ理由ノ存否ヲ證明書付與ノ要件ト爲サレハナリ然レトモ判決カ形式的ニ確定シタルキ否ヤア獨立的ニ調査セサルベカラス何トナレハ判決確定ノ證明書付與ハ法律カ裁判所書記ニ委任シタル獨立的職務ノ一ナレハナリ此調査ヲ爲ス方法ハ訴訟記録ニ基キテ第一ニ判決カ形式的ニ確定スルニ適當ナルヤ否ヤ(第四九八條第二ニ判決ニ對シテ故障ノ申立又ハ上訴ノ提起カ許サルヘキモノナルヤ否ヤ第三ニ故障又ハ上訴カ許サルヘキ判決ニ對シテ當事者カ爲シタル故障ノ申立又ハ上訴ノ提起ハ其不變期間經過後ナルニ因リ又ハ上訴權及ヒ故障申立權ノ棄棄若クハ上訴及ヒ故障ノ取下或ハ判決ノ言渡ニ因リテ判決ニ形式的確定ノ存スルヤ否ヤア調査スルニ

在リ第一ニ若シ判決カ形式的ニ確定スルニ不適當ナルモノナルトキ(中間判決ノ如キ)裁判所書記ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコト能ハナルヘタ第二ニ若シ判決ニ對シテ故障ノ申立又ハ上訴ノ提起カ許サルトキハ裁判所書記ハ故障又ハ上訴ノ不變期間カ空シタル經過シタルコトハ確實ナル場合ニ於テ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ヘシ是ヲ以テ直接送达主義ヲ認メタル獨逸民事訴訟法ニ於テハ(獨逸民事訴訟法第一五二條判決確定ノ證明書ヲ申請スル當事者ハ裁判所書記ニ送达證書ヲ提出シテ不變期間カ既ニ判決正本ノ送达ニ因リテ進行シタル旨ヲ證明シ且上訴ニ關シテハ特ニ上訴カ不變期間内ニ提起ナカリシ旨ヲ證明セサルヘカラス我民事訴訟法ハ間接送达主義ヲ認メタルヲ以テ(第一三六條判決正本ノ送达證書ハ當事者ノ手中ニ存セヌシテ却テ裁判所書記ノ手中ニ存ス故ニ判決確定ノ證明書ヲ求ムル當事者ハ裁判所書記ニ唯上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトギニ限り不變期間内ニ上訴ノ提起ナカリシ旨ヲ證明スルヲ以テ足レントス(第四九九條第三項)而シテ故障ハ關席判決ヲ言渡シタル裁判所ニ申立フルモノナル(第二五六條)

裁判所書記ハ不變期間内ニ故障ノ申立ノ有無ヲ容易ニ訴訟記録ニ基キヲ調査スルコトヲ得随ア判決ニ對シテ故障カ許サルヘキ場合ニ於テハ判決確定ノ證明書付與ヲ求ムル當事者ハ不變期間内ニ故障ノ申立カカリシ旨ヲ證明スルノ必要ナキヤ當然ナリ然レトモ上訴ノ提起ハ之ニ反シテ上訴状ヲ上訴裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スモノナルヲ以テ(第四〇一條第四三八條判決確定ノ證明書ヲ求メラレタル下級審ノ書記第一審並ニ第二審ノ書記ハ其所屬裁判所ノ判決ニ對シテ上訴アリタルセ否ヤヲ知ルコトヲ得ス上級審カ下級審ノ所在地ヨリ達隔シタル地ニ在ルトキハ書類ノ往復ニ日數ヲ要ス隨テ上級審ノ書記カ上訴ノ提起アリタルカ爲メニ民事訴訟法第四百三十一條ニ則リ訴訟記録ノ送付ヲ求ムルモ其請求書類カ未タ下級審ニ到達セサル場合アリ故ニ下級審ノ書記ハ判決ノ送達ヨリ一箇月間内ニ上級審ノ書記ヨリ訴訟記録送付ノ請求ナカリシ一事ヲ以テ上訴ノ提起ナキモノト速断スルコトヲ得ス故ニ判決確定ノ證明書ヲ求ムル當事者ハ上訴カ其期間内ニ提起セラレサルコトヲ證明セサルヘカラス此證明ノ目的ノ爲タニ法律ハ民事訴訟法第四百九十九條第三項ニ規定セル上

殖ノ業トスルヲ謂フ漁業ヲ爲スニハ必シモ行政官廳ノ許可ヲ要セス唯獨占的性質ヲ有スルモノハ免許ヲ要ス其他獨占的性質ヲ有セナル漁業ト雖モ主務大臣ニ於テ之ヲ私人ノ自由ニ放任スヘカラスト認メタルトキハ其認許ヲ得スシテ之ヲ爲スコトヲ禁セラル而シテ此等ノ漁業ニ付テ行政官廳ノ免許ヲ得タル者ハ法律上漁業権ヲ有スルモノトス漁業権ノ主體ハ私人私ノ法人ヲモ包含ス此ニ漁業法ニ依ル漁業組合ナリ而シテ免許漁業中水面專用漁業ハ永續ノ慣行ニ因リ私人カ之ヲ有スル場合ノ外ハ漁業組合ニ非ナレハ其權利ヲ有スルコトヲ得ス又漁業免許ノ期間ハ二十箇年ヲ限リ又漁業権ハ相續、譲渡、共有及ヒ貸付ノ目的ト爲ルコトヲ得ルノ外私権ノ目的ト爲ルコトヲ得ス
漁業組合トハ漢浦漁村其他漁業者ノ部落ノ區域ニ依リテ其區劃内ノ漁業者カ合意ノ上行政官廳ノ許可ヲ得テ設置シタル法人格者ニシテ漁業権ノ享有及ヒ行使ヲ付キ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノトス然レトモ法人ハ自ラ漁業ヲ爲スコトヲ得ス其組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ニシテ爲サシム金キ法律上ノ義務ヲ負フモノ才ニ其他國法、水產動植物繁殖及ヒ漁業取締を爲本必要大ル

規定ヲ設ケ並ニ之カ規定ヲ設タルトツ主務大臣ニ委任シ及ヒ漁業ニ關スル
重要物產同業組合トモ精スヘキ水產組合ニ關スル規定ヲ設ケ並ニ漁業權ノ保
障ニ關シ行政訴訟ヲ許セリ。此ニ於テ公私ノ財産を有する者人、自支農業及牧業人
(二) 狩獵 狩獵トハ地上ニ於テ鳥獸ヲ捕獲スルノ謂ニシテハ一定
ノ取締規定ヲ設タルノ必要アリ。但シ漁業者、園林者、園林業者、及ヒ其關係人、地主者
狩獵ニ關スル現行行政法規ハ狩獵法及ヒ獵虎脛膀獸獵法是ナリ。狩獵法ノ規定
ニ依レハ狩獵權ハ自己ノ所有地内ニ於テモ地方長官ノ認許アルニ非サレハ之
ヲ專占スルコトヲ得ス即ち所有權トハ特立シタル權利トセリ故ニ之ヲ定義シ
テ官廳ノ免許ニ依リ法定ノ制限内ニ於テ無主ノ鳥獸ヲ先占取得スル權利ナリ
ト謂フコトヲ得ヘシ。但シ其地内に於テ公私ノ財產を有する者人等が其財產
狩獵權ノ取得及ヒ行使ニハ法定ノ條件並ニ制限ヲ遵守セザルヘカラズ。樹木
獵虎脛膀獸ノ狩獵ニ關シテハ特別ノ禁獵區、禁獵期、禁獵種、禁獵具ノ制アリテ特
別ノ取締ニ服ス。又、其廢止を要する事項開古前後費資又は其地主者等の觀点
(三) 鎌業 鎌業トハ土地ヨリ鎌物ヲ採掘スルノ謂ニシテ或ハ之ヲ土地所有者

ノ利益ト認ムルヲ得ヘタ又一般公衆ノ利益トモ認ムルヲ得ヘシ然レトモ鎌業
ハ其執行方法ニ於テ全然其他ノ土地ノ利用方法ナリ。但シ之ヲ以テ必スシモ之
ヲ所有權ノ效果中ニ包含セんムルノ必要ナキノミナラス。此ノ如キハ往往天產
ヲ暴殄スルカ如キコトアルヘキヲ以テ採掘ハ之ヲ所有權ノ效果ト認メサルヲ
可トス孰レニセヨ。鎌業ハ一朝ニシテ莫大ノ利益ヲ見ルヘキモノニシテ同時ニ
國家ノ富ヲ増進スヘキモノナレハ私人ノ採掘ニ關シテ各種ノ法則ヲ必要トス
加之又其執行上ニ制限ヲ設ケテ危害ヲ豫防スルノ施設ヲ爲ナシメサルヘカラ
ス。是レ鎌業ニ關スル行政法規ヲ必要トスル所以ナリ。又、鎌業ノ實質、鎌業
鎌業ニ關スル現行法規ハ鎌業條例及ヒ砂礫採取法是ナリ。一ヘ一定ノ鎌物ノ試
探、採掘ニ關スル規定ニシテハ砂礫採取ニ關スル規定ナリ。
鎌業條例ノ適用ヲ受クル鎌物ハ法定ノモノニ限レリ而シテ此等ノ鎌物ニシテ
未タ採掘セラレナルモノハ國ノ所有ニ屬シ溢ニ之ヲ採掘スルヲ得不故ニ鎌業
ヲ營マント欲スル者ハ國ノ許可ヲ得サルヘカラス。此許可ヲ分チテ試掘及ヒ採
掘ノ二トス試掘權ハ鎌物ノ有無ヲ探檢スルノ權利ニシテ一定ノ地區ヲ定メテ

一年間ニ限り之ヲ行使スルコトヲ得試掘權ノ設定アル地域ニハ同種ノ鐵物ノ試掘ヲ出願スルコトヲ得ス其異種ノ鐵物ニ係ルトキハ權利者ノ同意ヲ要ス又採掘權トハ鐵物ヲ採掘スルノ權利ニシテ之ニハ期間ナシ試掘權ト同シク一定ノ地域ヲ限リテ之ヲ專占シ他人ハ異種ノ鐵物ト雖モ採掘權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其地域内ノ試掘及ヒ採掘ヲ出願スルコトヲ得サルモノトス試掘權モ亦採掘權ト共ニ官廳ノ許可ニ依リ鐵物ヲ採取シ其所有權ヲ得ルノ權利ナリ試掘及ヒ採掘權者ハ一方ニ於テ私利ヲ營ム者ナリト雖モ同時ニ又國富ノ増進ヲ來スヘキ事業ヲ營ム者ト看ルヘキヲ以テ其事業ニ伴フ必要事項ハ之ヲ充タスコトヲ得セシメサルヘカラス左レハ鐵業者ハ官廳ノ許可ヲ得及ヒ損害ヲ賠償シテ他人ノ土地ヲ測量シ及ヒ鐵業上ノ必要ニ依リ損害ヲ賠償シテ他人ノ土地ヲ借受ケ使用スルノ權利ヲ有ス
鐵業者ニ對スル行政警察ハ二端内及ヒ鐵業ニ關スル建築物ノ保安ニ鐵夫ノ生命及ヒ衛生上ノ保護ニ地表ノ安全及ヒ公益ノ保護ノ三點ヨリ行ハルニセラニシテ農商務大臣ハ殊ニ此目的ヲ以テ鐵業警察規則ヲ定ムルノ職權ヲ有ス

其他鐵業條例ハ鐵業人及ヒ鐵業勞役者ノ契約上ノ利益ヲ保護スルカ爲メ雇傭契約ノ解除ニ關スル幾多ノ特例ヲ開キ又鐵夫ノ使役ヲ節制スル爲メ農商務大臣ニ鐵夫使役規則ヲ定ムルコトヲ得ルノ權利ヲ委任シ其他一定ノ場合ニハ鐵業者ハ自己ノ出捐ヲ以テ鐵夫ヲ救恤スヘキモノトセリ
砂鐵採取法ノ適用ヲ受タル鐵物ハ砂金、砂錫及ヒ砂鐵ニ限ル同法ハ鐵業條例ト其原則ヲ異ニシ砂鐵ヲ以テ國ノ所有トセス土地所有者ノ利益トシテ之ヲ認メタリ是レ砂鐵ハ多々地表ニ在ルヲ以テナリ然レトモ公益ノ爲メニ其採取ヲ制限セザルヘカラナルノ必要ニ至リテハ兩者異ナル所ナシ故ニ同法ニ依リ砂鐵採取權ヲ定義スレハ自己ノ所有地ニ對スル採取權ハ單ニ官廳ノ許可ニ依リ砂鐵ヲ採取スルノ權ニシテ他人ノ土地ニ對スル採取權ハ官廳ノ許可及ヒ所有者ノ承諾ニ依リ砂鐵ヲ採取シ其所有權ヲ得ルノ權ナリト謂フヲ得ヘシ砂鐵採取人ハ砂鐵採取上ノ必要アルトキハ鐵業人ト同シク他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

(四) 農業 農業ニ關スル現行法規ハ害蟲驅除豫防法肥料取締法種類検査法及

ヒ耕地整理法等ナリ

内務行政

三七六

- (イ) 害蟲驅除豫防　害蟲トハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ害蟲田畠烟ニ發生シ又其處アルトキハ田畠作人ハ地方長官ノ命ニ從ヒ之ヲ驅除豫防スルノ義務ヲ負フ其蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ地方長官ハ市町村ノ費用ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行ヒ其他之ニ必要ナル一切ノ處分ヲ爲スノ職權ヲ有ス
(ロ) 肥料取締　肥料トハ農產物ノ肥養ニ供スル物料ヲ謂フ肥料取締ノ必要ハ主トシテ人造肥料ニ在ルモノニシテ其方法ハ肥料ノ製造販賣ニ對シテ免許ヲ與ヘ及ヒ肥料ノ臨検ヲ爲スニ在リ
前項ノ目的ヲ達スル爲メ政府ハ各府縣ニ肥料検査官ヲ設置スルノ計畫アリ
(ハ) 莖種検査　菑種トハ原種又ハ製糸用種ノ越年スルモノナリ菑種ハ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ移轉スルコトヲ得ス地方長官ハ吏員ヲ派遣シテ菑種ノ観察ヲ行ハシムルノ職權ヲ有ス
- (二) 耕地整理　耕地整理トハ耕地ノ利用ヲ増進スルノ目的ヲ以テ其所有者共同シテ土地ノ交換分合區畫形狀ヲ變更及ヒ道路畦畔若クハ溝渠ノ廢置ヲ行

ヲ謂フ耕地整理地區内ノ土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ設計及ヒ規約ヲ作リ農商務大臣ヨリ發起ノ認可ヲ得整理總會ノ議決ニ依リ少數者ヲ制壓シテ強行セラルモノトス

耕地整理ノ費用及ヒ夫役ハ整理地區内ノ土地所有者ニ於テ規約ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ負擔ス而シテ義務不履行者ニ對シテハ整理委員ノ請求ニ因リ市町村稅徵收ノ方法ニ依リ市町村長之ヲ強制徵收スルモノトス但夫役モ亦金錢ニ見積リ同様ノ方法ニ依リ強制ス
(五) 牧畜　牧畜ニ關スル法規ハ種牡馬検査法及ヒ獸疫豫防法並ニ獸醫免許規則ナリ
(イ) 種牡馬ノ検査　種牡馬トハ種付ニ使用スル牡馬ヲ謂フ馬匹ノ改良ハ單ニ產業上ノミナラス又軍事上急須ノ事業ナルコト論ヲ俟タス而シテ馬匹ノ改良ハ先ツ種牡馬ヲ精選スルニ如クハナシ種牡馬検査法ノ規定ニ依レハ牡馬ハ一定ノ例外ヲ除ク外毎年検査ヲ受ケ合格シタルモノニ非サレハ種付ニ使用スルコトヲ得ス検査合格ノ效力ハ通常一箇年ヲ限トス此期間内ト雖モ疾

病其他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認定セラルトキハ證明ノ效力ヲ失フモノナリ。種牡馬去勢を受ケシムル弊ヲ防クト戰時若クハ事變ノ際民間ヨリ徵發シタル牡馬ハ最モ頑強ニシテ不順ナリシカ爲メ軍事上之種馬ニ非ナル牡馬ヲシテ鑑ニ種付ニ使用セシムル弊ヲ防クト。馬匹去勢法ニ依レバ一般ノ馬匹ハ法定ノ例外ヲ除ク外總ノ官ニ於テ舉行スル去勢ヲ受クルコトヲ要ストセリ。蓋シ前項馬匹改良ノ必要上之種馬ニ非ナル牡馬ヲシテ鑑ニ種付ニ使用セシムル弊ヲ防クト。戰時若クハ事變ノ際民間ヨリ徵發シタル牡馬ハ最モ頑強ニシテ不順ナリシカ爲メ軍事上之種馬ニ非ナル牡馬ヲシテ鑑ニ種付ニ使用セシムル弊ヲ防クト。馬匹去勢法ニ依レバ一般ノ馬匹ハ法定ノ例外ヲ除ク外總ノ官ニ於テ舉行スル去勢ヲ受クルコトヲ要ストセリ。蓋シ前項馬匹改良ノ必要上之種馬ニ非ナル牡馬ヲシテ鑑ニ種付ニ使用セシムル弊ヲ防クト。

(八) 獣醫。獸醫ヲ公證スルノ必要モ亦醫師ニ準スヘキモノナリ。左レハ獸醫ハ法定ノ資格アル者ニ非サレハ開業スルコトヲ得ス。但獸醫ノ乏シキ地方ニ在リテハ履歷ニ依リ假免狀ヲ受タルコトヲ得。獸醫犯罪若クハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ其業ヲ停止シ又ハ禁止スルノ職權ヲ有ス。

(九) 獣醫ノ外他人ノ依頼ニ應シ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其業ト爲ス。蹄鐵工ニ關シテハ別ニ踏鐵工免許規則アリ。

(二) 畜牛結核豫防法。畜牛結核病豫防法ノ定ムル所ナリ同法ハ畜牛ノ結核病

カ其乳汁ニ依リテ人類ニ傳播スルヲ防クトカ爲メ法定ノ畜牛ハ總ノ行政官廳ノ検査ヲ受クヘキモノトシ其結核病ニ罹リタル畜牛ニ關シテハ撲滅領悶スヘキ旨ノ規定ヲ設ケタリ。其他外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテモ内地畜牛ニ準スヘキ規定ヲ設ケタリ。

第一項 商工業ニ關スル法規

(一) 商業ニ對スル一般法規。商業ニ對スル一般ノ法規ハ民法ニ對シテ特別法ヲ爲セル。商法中ニ規定セラレタルヲ以テ最前ニ述ヘタル原則ニ依リ茲ニ之ヲ論述シノノ限ニ在ラス。本項ノ論述は總務省之に於ける開拓地等要案及支拂金等ノ各種法令ヲ以テ之ノ規定セラレタリ。銀行ヲ分チテ普通銀行及び特別銀行ノ二種ス。普通銀行者、總務省之に於ける開拓地等要案及支拂金等ノ各種法令ヲ以テ之ノ規定セラレタリ。銀行ヲ分チテ普通銀行及び特別銀行ノ二種ス。

(イ) 普通銀行 普通ノ銀行ニ對シテハ明治二十三年八月法律第七十二號銀行
條例ノ規定アリ同法ニ依ル銀行トハ公ニ開キタル店舗ニ於テ證券ノ割引ヲ
爲シ又ハ爲替事務ヲ爲シ又ハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲スモノヲ總稱ス銀行
ニハ會社組織ト個人組織トアリ其孰レニ在リテモ大臣ノ認可ヲ得ルニ
非ナレハ之ヲ設立スルコトヲ得ズ其他銀行ハ一般ノ商人又ハ營利社團ニ比
シテ特別ノ監督ニ服スルモノトス例セハ報告及ヒ公告ニ關スル規定及ヒ營
業ニ關スル特別監督ヲ規定ノ如キ是ナリ
(ロ) 特別銀行 森ニ特別銀行ト稱スルハ(一)日本銀行(二)日本興業銀行(三)日本勸
業銀行(四)農工銀行五横濱正金銀行(六)北海道拓殖銀行七時蔵銀行ヲ謂フ此等
ノ銀行ハ普通銀行ニ比シテ特殊ノ位置及ヒ目的ヲ有ス故ニ一般ノ規定ニ依
ルコトヲ得ス左レハ各特別法ヲ以テ其目的及ヒ組織等ヲ限定セラレタルヲ
以テ其活動範圍ハ狹キニ從ヒテ解釋ス
(一)日本銀行ノ他ノ銀行ト異ナル特徵ハ兌換金券ヲ發行スルノ權ヲ有スルコ
トニシテ此特權ノ行使ニ關シテハ別に兌換銀行券發行條例ノ規定ニ依ルニ

トヲ要ス而シテ兌換金券ノ發行ニ付テハ特別ノ納稅義務ヲ負擔スルモノナ
リ其他國庫金ノ取扱ニ從事スルコトモ亦其特徵ノ一ナリ(二)日本興業銀行
主トシテ國債證券、地方債券、社債券等ノ取扱ニ從事シ(三)日本勸業銀行及ヒ(四)
農工銀行ハ主トシテ農工業者ノ利益ノ爲シニ設ケラレタルモノナリ此兩銀
行ハ不動產ヲ抵當トシテ又法定ノ場合ニ於テハ無抵當ニテ長期ノ貸付ヲ行
フモノナリ(五)横濱正金銀行ハ主トシテ外國ノ爲替、荷爲替ヲ取扱ヒ其他貨幣
ノ交換等ヲ行フ(六)北海道拓殖銀行ハ北海道拓殖事業ノ金融機關トシテ設ケ
ラレタルモノニシテ此事業ニ對シ不動產ヲ抵當トシテ長期ノ貸付ヲ行ヒ及
ヒ北海道ノ拓殖ヲ助成スヘキ法定ノ場合ニ於テ動產又ハ有價證券ヲ抵當ト
シテ短期ノ貸付ヲ行フモノナリ(七)善後銀行ハ複利ノ方法ヲ以テ預金ヲ事業
ヲ營ムモノニシテ比較的嚴密ナル監督ニ服スルモノナリ此種銀行ノ運営ニ關シテ
(三) 取引所 取引所ニ二種アリ一ハ有形ノ貨物ヲ取引スル所ニシテ二ハ貨物
ノ價格ニ付テ取引ヲ爲シ現物引渡ヲ爲素トセサルモノナリ前者ハ通常市場ト
稱シ之ニ對シテハ勅令以上ノ法規ナシ後者ハ所謂取引所ト稱スルモノニシテ

其之ヲ設置スルノ利益ハ商人ヲシテ需要供給ノ中心點ニ於テ簡易ニ取引ヲ爲サシメ及ヒ需要ト供給トヲ調度スルニ在ルモ此設營ハ實業者ヲシテ射幸伴ノ一方ニ傾カシメ往往ニシテ弊害ヲ生スルモノナルヲ以テ之ヲ禁止スルノ必要ナキモ之ヲ取締ルノ必要アリ之ヲ取引所法ノ立法理由トス取引所法ニ依レハ取引所トハ動産又ハ有價證券ノ賣買ヲ媒介スルモノニシテ會員組織アリ株式會社組織アリ共ニ賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人カ其商業上ノ機關トシテ政府ノ免許ヲ受ケテ設立スル社團法人ニシテ財產ヲ所有シ及ヒ之ヲ處分スルノ能力ヲ有シ其財產ヲ限り責任ヲ負フモノトス會員組織ノ取引所ニ在リテハ其取引所ノ仲買人又ハ會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得株式會社組織ノ取引所ニ在リテハ其取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得ルモノトス取引所ノ監督ハ農商務大臣之ヲ行ヒ法令ノ規定ニ依リ監督上必要ナル處分ヲ行フコトヲ得

(四) 商業會議所 商業會議所ハ商業ノ發達ヲ圖ル爲メ組織セラレタル組合體ナリ之ニ關シテハ既ニ總論中ニ述ヘタルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス唯茲ニ注意スヘ

キハ新法ニ依ル會議所ハ公共團體ノ性質ヲ有スルニ至レルコト是ナリ。英國(五) 工業所有權 茲ニ工業所有權ト稱スルハ特許權意匠權並ニ商標權ヲ總稱ス此等ノ權利ハ其ニ工業ノ發達ヲ助成スル爲メニ與ヘラレタルモノニシテ現行法規ハ特許法、意匠法及ヒ商標法トス

(イ) 特許權 特許權ハ工業上ノ物品及ヒ方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若クヘ其承繼人ニ於テ農商務省特許局ノ特許處分ニ依リテ享有スルコトヲ得ル權利ナリ抑モ法律カ發明者ニ對シテ此種ノ權利ヲ與フル理由ヲ考フルニ若シ工業上ノ發明者ニシテ其經營苦心ニ因リテ產出シタル發明品ヨリ生スヘキ當然ノ利益ヲ保護セラレナルニ於テハ自ラ苦シテ他人ノ爲メニ其利ヲ奪ハルノ結果ヲ生シ國家カ工業ノ發達ヲ助成スル所以ニ非サルヲ以テ發明者ニ其物ノ專賣權ヲ與ヘテ之ニ當然受クヘキ報酬ヲ與フルノ途ヲ啓キタルニ外ナラス左レハ特許權ノ效果ハ(一)物品ノ發明ヲ爲シタル特許權者ハ其發明ノ物品ヲ專ラ製作使用販賣若クヘ弘布スルノ權ヲ有シ(二)方法ノ發明ニ係ル特許權者ハ其者ニ限り之ヲ使用若クヘ弘布スルノ權ヲ有スルモノニ

シテ其權利ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル。物品ニ及フモノナリ特許權ノ年限ヲ十五年トス是レ公益ノ爲メニ之ヲ公ニセシムルノ必要アルニ由ルナリ又特許權ハ財產權ナリ故ニ制限ヲ附シ若クハ附セシテ讓渡シ共右ト爲シ又ハ質權ノ目的ト候スコトヲ得ルナリ特許權設定ニ關スル不服アリタルトキ若クハ他人ノ特許權ト互ニ撞著スルトキハ特許權者ハ特許審判官ニ其審決ヲ請求スルコトヲ得而シテ此審決ニ不服アル者ニシテ法律適用上ノ異議アルトキハ大審院ニ出訴スルコトヲ得大審院ハ出訴ノ理由山アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ再審查ヲ特許局ニ命スルモノトス當該事件ニ對スル大審院ノ意見ハ特許局ヲ拘束ス外國人ノ發明ニ特許ヲ與フルコトハ新進ノ帝國ノ爲メニ最モ不利ナリト雖モ日英伊白條約議定書ニハ領事裁判撤去前工業所有權及ヒ版權保護ニ關スル列國同盟條約ニ加入スルコトヲ約シタルヲ以テ遂ニ之ニ加入スルコト爲リ現今ハ外國人ノ發明キ亦之ヲ保護セリ即チ特許法第十四條ハ工業所有權保護同盟國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者七箇月以内ニ同一ノ發明

ニ付キ特許ヲ出願シタルトキハ其出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有スト規定セリ

(二) 意匠權 法律カ意匠權ヲ保護スル理由モ特許ニ準スヘキモノナリ意匠權トヘ工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模様色彩又ハ其結合ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者若クハ其承繼人カ農商務省特許局ノ登録ヲ受ケテ之ヲ專用スルノ權ヲ謂フ意匠權ノ存續期限ハ十年ニシテ特許權ト同様ノ範圍ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得意匠權ニ對スル行政上ノ救濟手段ハ現行法中別段ノ規定ナシ又工業所有權保護同盟加入ノ效果ニ依リ意匠法第十條ハ特許法上同一精神ノ規定ヲ設ケタリ
(三) 商標權 商標權トヘ自己ノ商品ナルコトヲ表彰スル爲メニ商標ヲ専用スルノ權利ニシテ農商務省特許局ノ登録處分ニ因リテ發生スルモノナリ法律ニカ商標權ヲ認ムル理由ハ前項述フル所ニ依リテ類推スルヲ得ヘシ商標權ノ存續期間ハ二十年ニシテ商標法ノ規定スル範圍内ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得商標權ニ關スル行政上ノ救濟手段ハ別ニ其規定ナシ又商標法第九條ニ

ハ外國人ノ商標登録ニ關スル規定ヲ設ケタリ
以上述ヘタル三種ノ工業所有權中特許權ト意匠權トハ互ニ相類似セリト雖モ
一ハ工業上ノ物品及ヒ方法ニ關スル發明ナラナルヘカラナルモ一ハ物品又ハ
方法ノ發明ナルコトヲ必要トセス單ニ工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模様色
彩又ヘ其結合ニ係ル新規ノ意匠ヲ挿出シタルコトニテ足レリトス又特ニ法律
上注意スヘキハ特許權ハ發明其モノカ最先ナルコトヲ必要トスルモ意匠權ハ
意匠ノ挿出カ必シニモ最先ナガコトヲ必要トセサルコト是ナリ換言スレハ特
許ヲ受クルノ權ハ最先ノ發明ニ因リテ生スルモ意匠登録ヲ受クルノ權ハ最先
ノ出願ニ因リテ生スルモノトス
特許權意匠權及ヒ商標權ハ何レモ登録ノ處分ニ因リテ生スル權利ニシテ私人
ニ對シテハ私權タリ國家ニ對シテハ公權タリ登録ハ此等ノ權利ヲ設定スル行
政处分ナリ

第三項 土地、森林、原野ニ關スル法規

- (一) 名稱區別 地所ノ名稱區別ヲ定ムルハ土地ニ關スル行政ノ第一階段ナリ
之ニ關スル現行法規ハ明治七年十一月布告地所名稱區別ナリ同法ハ土地ヲ分
チヲ官有地及ヒ民有地ノ二種トシテ更ニ官有地ヲ四種、民有地ヲ二種ニ區別シ
此等各種ノ土地ノ行政法上ノ位置ヲ規定セリ
- (二) 北海道ニ於ケル國有地ノ處分 一般ノ官有財產土地ヲモ包含スハ官有財
產管理規則ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分セサルヘカラス然レトモ北海道ノ國有土地
ハ同地方ノ拓殖ヲ獎勵スル爲メ之ヲ移住民ニ下付スルノ制ヲ設ク而シテ此處
分ヲ爲スニ當リオモ一定ノ方針ヲ貫徹スルコトヲ必要トスルヲ以テ明治三十
年三月法律第二十六號ハ北海道國有未開地ノ處分規定ヲ定メ開墾牧畜若クハ
植樹ニ供セシムスガ土地ハ先づ無償ニテ之ヲ貸付シ全部成功ノ後無償ニテ付
與スルノ常規ヲ定メタリ其他明治二十三年九月法律第七十九號ハ屯田兵土地
給與規則ヲ定メ屯田兵地シテ北海道ニ移住スル者及ヒ屯田兵村(二百五十戸以
内)ニハ法定ノ條件ヲ下ニ法定ノ土地ヲ支給ス合計コトヲ規定セリ又北海道ノ
土人アリス保護ノ目的ヲ以テ北海道土人保護法ハ一定ノ條件ノ下ニ土人ニ土

地ヲ下付スルノ制ヲ定メタリ此れ眞土人等ニ於ヘ一家ノ耕種ノ不當土人ニ生
所有權確定セス隨テ地租ヲ徵收シルコトヲ得ス此ノ如キヨトム今日ニ在リテ
公益上駄許スヘキヨトニ非アルヲ以テ政府ハ幾多ノ星霜ヲ重ナラ之カ調査ヲ
爲シ遂ニ沖縄縣土地整理法ヲ以テ土地ノ所有權ヲ確定スルノ方法ヲ定メタリ
其要旨ハ從來ノ村持地ニシテ之ヲ其住民ニ配當シテ耕作利用セシムタニシモ
ノハ其住民ノ所有ドシ若シ其土地ニシテ有償名義浮掛又ハ叶掛ヲ以テ耕作利
用セシタルモノナルトキハ其村住民ノ共有トス但其有償名義ノ貸付ニシテ
報償不納ノ場合ノ外取戻スコトヲ得サルモノハ其之ヲ耕作利用スル者ノ所有
ニ歸セシム其他同法ハ各種ノ土地ニ關シラ一十權利者ヲ確定スルノ規定ヲ設
ケタリ

(四) 國有林野ノ經營 明治三十二年三月法律第八十五號ハ國有林野ノ管理經營ニ關シテ一定ノ方針ヲ確立セリ今其綱要ヲ左ニ掲ク
國ノ所有ニ屬スル森林原野ニシテ(二)國土保安(二)國有林野ノ經營上國有林野法

保存ノ必要アルモノハ公用又ハ公益事業ノ爲メニ必要アルトキノ外主務官廳
ニ於テ濫ニ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス然レトモ以上ノ條件ニ該當セナ
ル國有林野ハ之ヲ處分スルコトヲ得ルモ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ競爭
入札ニ付セザルヘカラズ然レトモ此ノ如キハ往往ニシテ廢柱ノ感アルヲ免レ
サルコトアルヘキヲ以テ同法第八條ハ一定ノ場合ヲ限リ隨意契約ニ依リ之ヲ
賣拂フコトヲ得ルコトヲ定メ其第十一條ハ隨意契約ニ依リ貸付シ又ハ使用セ
シムルコトヲ得ルコトヲ定メ其他各種ノ處分ニ對シテ會計法ノ特例ヲ定メタ
リ蓋シ今日ノ國有林野ハ沿草上其地元町村又ハ住民等ト極メテ密接ノ關係ヲ
有スルヲ以テナリ此等ノ特例中最モ注意スヘキハ部分林委託林及ヒ社寺保管
林ニ關スル規定はナリ部分林トハ國家カ造林者下其收益ヲ分收スルノ契約ヲ
以テ設定シタルモノニシテ委託林トハ國有林野ノ保護上必要ナル場合ニ於テ
市町村又ハ市町村ノ一部ニ其保護ヲ委託スルモノヲ謂ヒ社寺保管林トハ社寺
上地ヲ社寺ニ保管セシメ勒令ノ定ムル所ニ從ヒ其林地ノ使用又ハ其主副產物
ヲ採取スルノ權ヲ與ヘタルモノニシテ此等ノ林地ニ關シテハ別ニ國有林野法

ノ委任ニ依リ又ハ之ヲ施行スル爲メ發セラレタル國有林野部分林規則、國有林野委託林規則及ヒ社寺保管林規則等ヲ參照スヘシ森林、鹿鼠又ヒ其主害者等
 (五) 森林ノ監督、森林ニ關スル行政監督ハ森林法ノ規定スル所ナリ同法ニ於ク森林ト稱スルハ御料林國有林部分林公有林、社寺林及ヒ私有林ヲ總稱シ爾モ原野山嶽ト雖モ國土保安ニ關係アルモノハ森林ニ準シテ同法ノ支配ヲ受クヘキモノトセリ

森林ノ事業ハ長日月ノ經過ヲ待チテ始メテ成效スヘキモノナルノミナラス往々ニシテ國家經濟又ハ地方經濟ニ重大ノ關係ヲ有シ他方ニ於テハ國土ニ保安ト密接ノ關係アルモノナルヲ以テ私人又ハ公共團體カ目前ノ利益ノ爲メニ濫ニ之ヲ伐採開墾スルコトヲ許スヘカラサルコト固ヨリナリ是ニ於テカ同法ハ營林ノ監督規程ヲ定メ直接ニ政府ノ管理ニ屬セサル公有林、社寺林及ヒ私有林ノ保存ノ爲メニハ主務大臣ニ於テ必要ナル營林ノ方法ヲ指定シ其他伐採ノ停止及ヒ伐木跡ニ造林ヲ命令スルコトヲ得ルモノトシ且之ニ從ハサル者ニ對シテハ代執行ノ上部分林ト爲スヘキ規定ヲ設ケタリ其他一般森林ノ開墾ハ必

ス地方長官ノ許可ヲ受クヘキモノトシ又國土保安ノ爲メニハ主務大臣ハ豫メ箇所ヲ指定シテ森林ノ開墾ヲ禁スルコトヲ得ルモノトセリ

國土保安ニ重大ナル關係ヲ有スル森林ハ之ヲ保安林ニ編入シ特別ノ行政監督ニ服セシム其制限ノ重要ナルモノヲ例示スレハ(一)保安林ハ皆伐又ハ開墾ヲ爲スコトヲ得ス(二)許可ヲ得ルニ非サレハ土石切、芝ノ採取樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス(三)伐木及ヒ開墾ヲ禁止セラルコトアリ(四)使用收益ヲ制限セラルコトアルカ如キ是ナリ而シテ伐木ヲ禁止セラレタル損害ニ對シテハ御料林及ヒ國有林ヲ除クノ外補償ノ方法存スルモノトス加之一般ニ保安林ニ對シテハ地租及ヒ公課ヲ免除スル規定アリ

其他森林法ハ森林警察ニ關シテ必要ナル規定ヲ設ケタリ

(六) 國有土地森林原野ノ下层處分、地租改正及ヒ社寺ノ上地處分ニ依リ官有地ニ編入セラレタル土地中ニハ往往ニシテ其處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタルモノアルヲ以テ此等ノ土地中現ニ國有トシテ保護セルモノニ限リ之カ處分ノ過誤ヲ矯正スルノ目的ヲ以テ國有土地森林下层法ノ制定ノ

リタリ同法ハ尙ホ府縣設置以後上地處分ヲ受ケタル土地及ヒ地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地、脱落地ニモ單用セラルモノトス。前述ノ條件ニ該當シテ土地ヲ失ヒタル者ハ明治三十三年六月マテニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得下戻ヲ受ケタル者ハ其下戻ニ因リテ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得シ其土地森林原野若クハ立木ニ關シ第三者ニ對スル國ノ權利義務ヲ承繼スルモノトセリ。

第四項 度量衡及ヒ貨幣ニ關スル法規

(一) 度量衡 度量衡ノ畫一ト正確ハ經濟上最も重要ノ事項ニ屬シ私人ノ合意ヲ以テ克ク企圖スヘキコトニ非サルヲ以テ國法ノ規定ヲ要ス之ニ關スル現行規定ハ度量衡法是ナリ同法ニ依レハ度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トシ其名稱命位ハ度ニ在リテハ毛厘分寸尺、丈間町里トシ地積ニ付テハ勾合歩又ハ坪、畝段町トシ又量ニ在リテハ勾合升斗石トシ衡ニ在リテハ毛厘分貫斤、匁トス而シテ一定ノ合金ヨリ成ル棒及ヒ分銅ヲ以テ全國度量衡ノ基本原器トシ農商務大臣之

ヲ保管ス而シテ此原器ノ外農商務大臣ハ更ニ副原器。二組ヲ製作セシメ之ヲ原器ノ代用ニ供シ其中一組ハ文部大臣之ヲ保管ス然リ而シテ農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシム地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡検定ノ標準ヲ供與シ其業者ノ免許ヲ得サルノ必要アリ即チ同法ニ於テ此等度量衡ノ製作修復等ハ證ニ之ヲ爲サシメサルノ必要アリ即チ同法ニ於テ此等ノ事業ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ免許ヲ得サルヘカラナルモノトセリ又度量衡器ヲ製作シ修復シ若クハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其度量衡器ヲ檢定ヲ得サルヘカラス檢定ハ其法定ノ標準ニ合スルコトヲ公證スルノ處分カ度量衡器ハ一之ヲ檢定スルノミナラス又之カ取締ヲ嚴密ニセサルベシテ此取締ノ地方長官及ヒ市町村長之ヲ行ヒ度量衡ノ製作者修復者販賣者及ヒ使用者ニ就キテ之ヲ驗證スルコトヲ得而シテ若シ違法ノ度量衡器ヲ製作修復販賣又ハ使用者スル者ニビトキハ各一定ノ制裁ヲ受ケシムナシ

(二) 貨幣 貨幣ハ經濟上之交通ヲ媒介スル最重要之具タリ之カ品質品目價格

等ヲ畫ニスルハ自ラ國家ノ任務ニ屬ス貨幣法ニ依レハ貨幣ノ製造及ヒ發行ノ權ハ政府ニ專屬スルモノトシ價格ノ標準ヲ純金ニ求メ(金單本位其量目二分ヲ以テ圓ト稱シ之ヲ價格ノ單位ト爲ス)貨幣ノ品質ヲ四種トシ本位貨幣ハ金・補助貨幣ハ銀・白銅・青銅トシ金貨幣ヲ二十圓・十圓・五圓ノ三種・銀貨幣ヲ五十錢・二十錢・十錢ノ三種・白銅貨幣ヲ五錢ノ一種・青銅貨幣ヲ一錢及ヒ五厘ノ二種トセリ其他同法ハ貨幣ノ第則・品位・量目並ニ金貨幣ヲ除クノ外各種補助貨幣ノ通用制限、金銀貨幣純分ノ公差、金銀貨幣量目ノ公差、金貨幣通用ノ最輕量目等ニ關シヲ規定ヲ設ケタリ(運輸・通商・貿易・輸入・輸出・通貨・又ハ營業ノ日向ニ對付ヘ)。

第五項 交通ニ關スル法規

(一)郵便郵便ノ事業ハ性質上私人モ亦之ヲ營ムコトヲ得ヘシト雖モ其事業ノ運行ハ公益ニ重大ナル關係ヲ有スルト收益ノ多大ナルトニ依リ之ヲ國ノ事業トスルヲ可ト爲ス郵便法ニ依レハ郵便ノ事業ハ政府之ヲ獨占シ何人ト雖モ信書ノ送達ヲ以テ營業ト爲スコトヲ得サムモノトセリ郵便物ヲ分チ(一)通常郵便物及セ(二)小包郵便物ノ二種ト爲シ(一)通常郵便物ヲ(イ)書狀(ロ)郵便葉書(ハ)毎月一回以上刊行スル定期刊行物ミ(ニ)書籍・印刷物・業務用書類・寫真書畫・圖・商品見本及ヒ雑誌・博物學上ノ標本・ホ農產物種子ノ五種トシ其種類ニ從ヒテ料金ニ差異アリ又(二)小包郵便物ノ料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ルノトセリ(二)郵便物件及ヒ郵便物ノ不可便並ニ負擔免除(三)配達遅付及ヒ開披(四)郵便物ノ國庫歸屬前項ノ外同法ハ(一)郵便物ノ料金納入方法(七)郵便物ノ損害賠償其他制則等ニ關スル件及ヒ郵便物ノ不可便並ニ負擔免除(三)配達遅付及ヒ開披(四)郵便物ノ國庫歸屬(五)私人ノ受取ノ義務(六)料金納入方法(七)郵便物ノ損害賠償其他制則等ニ關スル大綱目ヲ規定シ些末ノ點ハ命令ニ委任シテ規定セシメタリ(八)郵便葉書(ハ)毎月政府ノ郵便事業ハ一方ニ於テ政府收入ノ源頭トシテ存立スルモノナルモ他方ニ於テハ公共ノ利益重大ナル關係ヲ有シ其敏活ト確實トす保障セサムヘカラヌ而シテ郵便物ノ十分ノ八ハ鐵道又ハ船舶ニ依リテ輸送セフルムモノナルヲ以テ郵便物ハ一方ニ於テ通常營業者ヲ強制ジテ之ガ配達ヲ爲シムルノ規定ヲ設ケルト共ニ鐵道船舶郵便法ハ右輸送ニ關シテ通常營業者ノ特殊ノ義務規定セリ(九)郵便葉書(ハ)毎月政府收入ノ源頭トシテ存立スルモノナルモ他方ニ於テハ公共ノ利益重大ナル關係ヲ有シ其敏活ト確實トす保障セサムヘカラヌ而シテ郵便物ノ十分ノ八ハ鐵道又ハ船舶ニ依リテ輸送セフルムモノナルヲ以テ郵便物ハ一方ニ於テ通常營業者ヲ強制ジテ之ガ配達ヲ爲シムルノ規定ヲ設ケルト共ニ鐵道船舶郵便法ハ右輸送ニ關シテ通常營業者ノ特殊ノ義務規定セリ

郵便事業ニ附帶シテ行ハルヲ郵便爲替及ヒ郵便賃金トス一ハ郵便爲替法ニ依リテ定マリ一ハ郵便賃金條例ニ依リテ定マリ此等之事業ハ除キ都郵便通路ヲ當タ存在セル郵便官署ヲ利用シ公益ノ爲利私人經濟有利便益速シノ方法ニ過キオルナリトシトモハ其事業又ハ該當之私人物設營ニ係ル電信電話ト雖モ主務大臣ハ命令合ノ定ムル所無依リ之ヲ公衆通信又ハ軍事通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得ルナリ大凡電信又ハ電話ニ依ル通信ハ何人も自由ニ之ヲ爲スコトヲ得ルヲ原則ト爲スト雖モ公安ノ爲ス又ハ風俗保全ノ爲必要ト認ムバトキハ主務官署ハ之カ停止ヲ命スルヨリトテ得其他同法ハ電信業ニ關スル政府及ヒ其使用人ノ特權等略ホ郵便法及ヒ鐵道船舶郵便法ニ相當スヘキ各種ノ條規ヲ定メタリ無理制限等を除本邦鐵道船舶郵便事務所又ハ其附屬之鐵道船舶郵便事務所電信線及ヒ電話線ノ建設ニ關シ必要ナル強制規定ヲ設ケタル事務所鐵道船舶郵便事務所電信線及ヒ電話線ノ建設ニ關シ必要ナル強制規定ヲ設ケタル事務所鐵道船舶郵便事務所

(三) 鐵道 我國ノ鐵道制度ハ大體ニ於テ國有ヲ目的ト爲シタルモノナガ即チ鐵道布設法及ヒ北海道鐵道布設法ハ主トシテ國防上ヨリ打算シテ一定ノ線路ハ政府自ラ之ヲ布設スヘキモノトシ又既成私設鐵道ニシテ官設鐵道布設ノ爲買收ノ必要アルモノハ議會ノ協賛ヲ求メ公債ヲ發行シテ其資金ヲ以テ買收スヘキコトヲ定メタリ然レトモ又一方ニ於フハ政府財政ノ都合ニ依リ豫定鐵路ト雖モ議會ノ協賛ヲ經テ私設鐵道會社ニ許可ヲ與カシトアシモルトシ現ニ此例外規定ニ依ル法律ヲ以テ豫定線路ヲ私設鐵道會社ニ譲リタルモノ専カラス然レトモ此等私設線路及ヒ其他ノ線路ト雖モ皆將來國有ト爲スベキノ方針ヲ採リ私設鐵道ハ政府ハ本免狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後鐵道及ヒ附屬物件ヲ買上クルノ權ヲ保有スルコトヲ規定シタリス此を思考則鐵道之此ノ如ク我國ノ鐵道法ハ原則トシテ國有主義ヲ採リ外人侵入を極端ニ此主義ヲ貫クトキバ國家ノ財政ニ限度アルテ以テ往往ニシテ鐵道大綱運ナシ普及至障礙シ公益ヲ害スルコドアルヘキヲ以テ一方ニ於此ハ私設鐵道興味モ又之ヲ許可スルノ方針ヲ採レリ然レドモ由來鐵道ノ事業ハ最も利潤多キ事業ガ反對

以テ一箇人人事業トスルトキハ益資本事制ヲ助長スルノ虞アルヲ以テ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得サルモノト爲シ鐵道ヨリ生ス所ノ利益ヘ之ヲ多數ノ人ニ配當スルヲ得セシムルコトセリ而シテ此株式鐵道會社ハ公益上ニ重大ナル關係又有スルモノナム足以不一般不會社ノ如無放任無ム也此得ス即チ尙ホ特別人制度ニ服セシムルコトヲ必要トスルヲ以テ私設鐵道ハ之ニ對スル必要ナル事項ヲ規定セリ

次ニ鐵道ノ營業ハ常ニ危險ノ伴フモノナルト共ニ往往ニシテ敏活ト正確ヲ缺クコトアルヘキモノナルヲ以テ鐵道營業法ハ(一)鐵道營業上ノ對人及ヒ對物ノ警察事項(二)法定ノ場合ニハ運送ヲ拒ムヘカラナルノ義務(三)鐵道係員ノ職制服務責任(四)運送上鐵道ノ責任ノ範圍等ニ關シ詳密ナル規定ヲ設ケタリ又鐵道ノ外ニ尙ホ軌道ナルモノアリ之ニ關シハ軌道條例ノ規定スル所ナリ鐵道ノ軌道トハ公共道路ニ布設スルト否トニ依リヲ區別アリ同法ノ規定ニ依ルハ一般運搬交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及ヒ其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ受クヘキモノトシ在來ノ道路ヲ取據メ又ハ更正シタル

部分及ヒ新設シタル軌道敷ハ其ニ道路敷ニ編入スルモノトセリ此條例ハ其他ノ法令ニ比シテ甚タ不備ナルヲ以テ早晚改正ヲ要スルナルヘシ
 (四) 船舶 之ニ關スル行政法規ハ稍々精密ナリ今之ヲ大別シテ(一)本國船ニ基ク規定(二)船舶警察ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ先ツ第一ヨリ講歩ヲ進ムヘシ船舶ニ關スル行政ノ第一著歩ハ先ツ其船籍ヲ定ムルニ在リ是レ船舶法明治十三年三月法律第四十六號ノ規定スル所ナリ同法ニ依レハ日本船舶トハ左ノ諸項ノ一二該當スルモノニ限ル

- 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
- 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
- 三 日本ニ支店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

五、舊商法ニ依リテ設立シタル合資會社ニ在リテハ事務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶又其外支拂及委員或日本國民大以上ノ條件ニ依リ日本船舶タルモノハ一定ハ權利ト義務トヲ有ス即チ日本ノ國旗ヲ掲ケ及ヒ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スノ權利ヲ有シ其船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請シ及ビ裁判所ニ船舶登記ヲ爲シタル後更ニ管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲シ船舶國籍證書ヲ受クルノ義務及ビ船舶検査法ノ規定ニ依リ其検査ヲ受クルノ義務是ナリ

一定ノ日本船舶ハ外國ニ渡航シ帝國警察權ノ及ハナル所ニ航行スルモノナルヲ以テ船舶内ニ居住スル船員ニ對シテハ特別ハ取締法ナカルヘカラサルバ固ヨリナリ船員法ノ定ムル所ニ依レハ船員タラントスル者ハ必ス船員手帖ノ交付ヲ管海官廳ヨリ受ケサルヘカラス此手帖ハ即チ船員ノ身分年齢等ヲ公證ルノ具ニ供セラルモノニシテ船員ノ法律上ノ位置ヲ明ガニズルモノタリ船長ハ法律ニ依リ與ヘラレタル權利シテ船員ヲ指揮監督シ及ビ船中ニ在ル者ヲ

ニ對シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得而船舶長ハ其支配スル船舶ノ安全及ヒ船員乗客貨物ノ保護ニ對スル最終ノ責任ヲ有ス船長ハ法定ノ場合ニ於テ海員ヲ懲戒シ(一)監禁(二)上陸禁止(三)加役四減給又處分ヲ爲スコトヲ得其他同法ハ海員ノ雇入雇止ニ關スル取締規程ヲ設ケタリ是處並ヘモ起居出港規則相應日本船舶ニハ濫ニ危險ナル航行ヲ爲ササランシムルコトヲ必要トスルヲ以一定ノ海事知識ヲ具備スル職員ヲ乘込マシメオダヘカラス是即チ船舶職員法(明治二十九年四月法律第六十八號)ノ定ムル所ニシテ官ヨリ海拔免狀と稱スルハ遞信大臣ノ定ムル者ヲ乘込マシメオダヘカラス而シテ此海拔免狀と稱スルハ遞信大臣ノ定ムル試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ク合格シ若久之と同等以上ノ資格ヲ有シ且海員名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與スルモノナリ海拔免狀ヲ受ケタル者ハ法律ニ依リ特別ノ監督ニ服ス此監督ニ關スル規程ハ海員懲戒法(明治二十九年四月法律第六十九號)ノ定ムル所ニシテ海員審判所懲戒則行ノ海員審判所ヲ分チテ地方海員審判所及ヒ高等海員審判所ハ二種ノ地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ之ヲ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置クモトドキリ審判所ノ公法上ノ性質

ハ憲法ノ所謂裁判所ナリヤ否を以て攻究スヘキ問題ナリ審議課、公團會、議院予輩ハ次ニ主トシテ船舶ノ國籍及ヒ船舶内部ノ組織ニ關スル行政法規ノ綱要ナリ船舶航行中天災ニ因リ危害ニ際會スルハ或ハ避クヘカラサルコトニ屬スル場合アルヘシト雖モ其人爲ヨリ生スル危害ハ出來得ル大ケ之ヲ豫防スルノ方法ヲ立テナルヘカラス人爲ノ危害ノ最も大ナルモノヲ海上ノ衝突トス是ニ於チ明治二十五年六月法律第五號海上豫防法ハ之ニ關スル詳密ナル規定ヲ設ケタリ即ナ一、船燈二、霧中信號三、霧中速力四、航方五、航路信號六難船信號ニ關スル規定是ナリ船舶ニシテ此等ノ規定ニ從ハヌシテ危害ヲ生シタルトキ、船舶職員ハ各之ヲ責ニ任セサルヘカラス

船舶開港ニ入ルニ當リテハ別ニ特別ノ制限ニ服セナルヘカラス此制限ハ即チ開港港則ノ規定スル所ナリ同法ノ規定ニ依レハ船舶入港スルニ當リテ、其國旗及ヒ信號符字ヲ掲ケ著港居ヲ港長ニ差出スヲ要ス而シテ別ニ自由交通ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其他ノ船舶又ニ陸地ト交通ヲ爲スコトヲ得ス又港長ヲ

指定シタル泊船所ハ已ニコトヲ得ナル場合ノ外立去バコトヲ得ス而シテ常用ニ超過シタル爆發物ヲ積載シタル船舶ハ入港前特ニ港界外ニ於テ港長ノ指揮ヲ待ツヘキモノナリムベシ、競合以上ニ船舶修理ハ船舶修理ノ事項ハ船舶ノ修理ノ事項ハ水難救護ニ關スル事項ハ水難救護法ノ規定スル所タリ同法ニ依レハ遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長並於テ該國ノ機關下シテ之ヲ行フヨリナカリ即ナ認知ヲ爲シタル市町村長ハ救護ニ必要ナル一切ノ處分ヲ行フノ職務ヲ有シ此職務ヲ行フ爲メ人ヲ招集シ船舶、車馬其他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルノ権利ヲ有ス船舶ノ救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得此救護費用ハ市町村長ヨリ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付シテ名ノ船長又ハ船舶所有者ハ此費用ヲ納付シテ市町村長ノ保護ニ係ル金錢其他者物件ヲ引渡フ受クルコトヲ得シ其額或又ハ水先法造船獎勵法航海獎勵法並ニ航路標識條例メ大要ヲ述フヘシ水先法ノ規定ニ依テ水先人ハ法定ノ資格ニ該當シ水先免狀ヲ得タル者タルコトヲ要ス水先人其業務ニ從事スルトキハ水先免狀及上水先證令書ヲ携帶シ

ルコトヲ要ス水先人ニシテ水先信號ヲ認ムタルトキハ直チニ要招海應ムトヨ
トフ要ス水先人ノ業務上ノ懲戒ハ大要船舶職員ニ於ケルト例シテ又其ノ
造船獎勵法及ヒ船舶獎勵法ハ其ニ我國海運ヲ操作スルノ目的ニ出テタルモノ
ニシテ造船獎勵法ハ一定ノ條件ヲ有スル船舶ヲ製造ナル者ニ限リ其噸數及ヒ
馬力ニ應シテ一定ノ金額ヲ補給スルコトヲ定ム又航海獎勵法ハ法定ノ條件ヲ
有スル船舶ハ其航海里數噸數速力ニ應シテ獎勵金ヲ支給ス而シテ此航海獎勵
金ヲ受クル船舶ノ所有者ハ二三段特別ノ義務ヲ政府ニ負シテ負擔スルモレバ
斯ニ得ムトヨリ也此獎勵金は船舶ノ航行距離又は航路標識ハ航海ノ安全ヲ保證スル
航路標識條例ハ航海ノ標識ハ航海ノ安全ヲ保證スルモレバ此獎勵金ヲ受クル船舶ノ
モ亦之ヲ設置スルヲ得ヘキモノニ取扱ヒ思量スル事項又は國庫ニ通ヨリ貯難
(五)道路 道路ニ關シテハ勅令以上ニ於テ特別ノ行政法ナシ然レトモ道路ノ
性質ヲ學問上ヨリ定解スルトキハ「何人ヲ問ハス他人ニ妨ケラルルコトナカツ
テ自由ニ交通ノ爲メニ使用スル時ヲ得ル土地之部分ナリ」ト謂フヨトヲ得ベ

シ道路ハ物其モノカ公用ノ効ヲ爲ス營造物タリ道路ハ公道ニ編入スル行政行
爲ニ因リテ其性質ヲ得ルモノナリ道路ニ國道縣道及ヒ里道ノ別アリ道路ニ關
スル費用ノ負擔ハ概子府縣以下ノ團體ニ於テ之ニ任ス一二舊慣ニ依ルモノニ
シテ一定ノ法規アリテ然ルニ非ス

第六項 土木ニ關スル法規

(一)河川 河川ニ關シテハ河川法ノ規定スル所ニシテ同法ハ(一)河川通航ノ安
全利便(二)河水ノ利用(三)水害豫防ノ目的ヲ達セんカ爲メニ設定セラレタルモノ
ナリ同法ニ依ル河川トハ形式的ノ意義ヲ有スルモノノミヲ指稱ス即チ主務大臣
シテ此河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

河川ハ原則トシテ地方行政廳ニ於テ其管内ニ屬スル部分ヲ管理シ及ヒ維持シ
之カ爲メ必要ナル工事ヲ施行ス唯他府縣ノ利益ヲ保全スル爲メ必要ト認ム
トキ若クハ工事至難ナルトキハ内務大臣自ラ之ニ當ルモノトス地方行政廳ハ

(二)其管内人下級行政廳又ハ(二)河川ノ附屬物ニシテ兼ナテ他ノ工作物の用ヲ爲ストキヘ其工作物ノ管理者ヲシテ河川ノ維持及ヒ工事ヲ爲シタルコトヲ得、又他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキヘ其工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得ルナリ

河川ニ於ケル舟筏ノ通行及ヒ水流ヲ占用セントスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受カラス又河川ノ敷地若クハ水流ヲ占用セントスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受タルヲ要ス河川ノ水流ニ關係シテ法定ノ工作物ヲ新築改築若クハ除却セントスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ得サル(カラス是レ皆河川ノ水流ヲシテ正念方向ニ疏通セシメ洪水等ノ危害ヲ生セラシムルカ爲ミニ設ケタル對物警察規定ニ外ナラス若シ河川ニシテ洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其現場ニ於テ直チニ防禦ノ爲メニ必要ナル土地ヲ使用シ土破竹木其他ノ材料車馬其他ノ運搬器及ヒ器具等ヲ使用若クハ徵收シ又ハ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得此場合ニ於テ地方行政廳又ハ委任ヲ受ケタル官吏ハ其管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公

共團體ニ命シテ土地材料、運搬具器具及ヒ夫役ヲ供セシメ又ハ市町村其他ノ市町村吏員ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲ爲ナシムコトヲ得ルナリ其他ノ地方行政廳ハ其管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲メ必要ナル準備ヲ爲シムルコトヲ得ルナリ
(二)砂防 砂防ニ關シテハ砂防法ノ規定スル所ナリ同法ハニ土砂ノ缺陥ニ由リテ河底ヲ淺クシ延テ洪水ヲ起スニ至ルヲ豫防スルノ主意ヲ以テ立テラレタルモノニシテ同法ニ依リ砂防設備ヲ要スル土地又ハ同法ニ依リ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止者クハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定スルモノナリ
主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲不行爲ヲ命シ又其地域ヲ監視シ砂防設備ヲ管理シ其工事ヲ施行シ其維持ヲ爲スノ義務ヲ負フ砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲メ必要ナルカ又ハ其利害關係ニシテ一府縣ニ止マラサル場合は於テハ主務大臣自ラ之ヲ管轄シ其工事ヲ施行シ又ハ其維持ヲ爲スナリ地方行政廳ハ(一)其管内ノ下級行政廳

(二) 他ノ工事作業其他ノ行爲ニ由リテ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生シタルトキハ其行爲ヲ爲シタル者ニ命ジテ其工事ヲ施行シ又ハ其砂防設備ノ維持ヲ爲シジムルコトヲ得。

第七項 産業團體ニ關スル法規

産業ノ隆興ハ各人ノ共力一致ヲ必要トス是レ國家カ法令ヲ發シテ各種ノ産業團體ニ關スル條規ヲ定メ或ハ隨意ニ或ハ相對的強制ヲ以テ或ハ絕對的強制ヲ以テ産業團體ヲ設立シテ之ヲ獎勵督進シ産業助長ノ行政ヲ爲ス所以ナリ
 (一) 産業組合ニシテ其資力又ハ信用ヲ合シテ産業上確實ナル信用主體ヲ構成セシメ之ヲ利用シテ其經濟上ノ利益ヲ増進センメントスルニ在リ故ニ同法第一條ハ産業組合ヲ規定シテ産業組合ハ組合員ノ産業又ハ其經濟ノ發達ヲ希圖スル爲メ(一)組合員ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及ヒ貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(借用組合)(二)組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ賣却スルコト

(販賣組合)(三)産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シラ之ヲ組合員ニ賣却スルコト(購買組合)(四)組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト(生產組合)ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ也
 産業組合ハ其性質上民法上ノ公益法人ト商法上ノ營利會社トノ中間ニ位スモノニシテ所謂社會政策上貧富懸隔ノ弊ヲ未發ニ防制セントスルノ立法上ノ目的ヲ有スルモノナルヲ以テ其成立ハ絕對的隨意組合ナリト雖モ法律ノ規定ニ依リ許多ノ特權ヲ有ス例セハ産業組合ニハ所得稅及ヒ營業稅ヲ課セサルカ如キ又一定ノ産業組合ハ農工銀行ヨリ無抵當貸付ヲ受クルコトヲ得ルカ如詩是ナリ然レトモ産業組合ハ又同時ニ公益ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ一般ノ社團法人ニ比シテ特別ノ監督ニ服スルモノトス
 (二) 同業組合ハ同業組合ニ關スル規定ハ(一)農商務省令同業組合準則ニ依ル各府縣令ノ同業組合條例(二)茶葉組合ニ關スル農商務省令(三)重要物產同業組合法(四)產牛馬組合法及ヒ漁業法ニ依ル水產組合等各種アリ今重要物產同業組合法

ニ付テ 説明スヘシ。此業者ニ就キ本業開拓者等ノ利害並々考慮せしめ置業組合並シテ其産業上ノ聲價ヲ維持セシメ兼ニテ其利益ヲ増進セシムルニ在リ此組合ハ此ノ如ク一種ノ警察的の目的ヲ有スルヲ以テ強制ヲ用フルニ非ナレハ其成立ヲ見ナルコトアル（キヲ以テ法律ハ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ少數者ヲ强制スルノ規定ヲ設ケ尙ホ必要アルトキハ農商務大臣ハ絕對的ニ強制シテ之ヲ設立ヲ命シ又ハ既成ノ組合ニ（一）地區（二）營業ノ種類（三）定期ノ改正ヲ命スルコトヲ得ルモノトセリ）（以下略）

其他ノ組合ハ概子前項ノ組合ト其性質同一ニス。

（三）農會 農會ハ農事ノ改良發達ヲ圖ル爲メニ設立スル相對的強制ノ團體ニシテ之ニ關スル法規ハ農會法及ヒ農會令ナリ

農會令ハ農會ノ組織ニ關スル規定ヲ定ムモノニシテ農會ヲ分ナラ（一）市町村農會（二）郡農會（三）北海道農會四府縣農會ノ四ト爲シ市町村農會ハ其區域内ニ於テ耕地又ハ牧場ヲ有スル者及セ農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織シ郡農會ハ其區

域内ノ町村農會、北海道農會又ハ府縣農會ハ其區域内ノ郡農會及ヒ市農會ヲ以テ之ヲ組織スヘキモノトセリ

第五款 教化ニ關スル法規

國家ハ國民ノ物質的生活ヲ完備ナラシムルカ爲メニ經濟ニ關スル行政ヲ施行ス然レトモ國家ハ單ニ物質的生活ニ對スル行政ヲ爲スヲ以テ足レリトセス惟ミテ國民ノ精神的生活ヲ高尚圓滿ナラシメンカ爲メニ行政セサルヘカラサル蓋シ有形、無形ニ臣民ノ幸福ヲ增进スルノ行政ハ固ヨリ並行セサルヘカラサルモノニシテ所謂居齒輔軍ノ關係ヲ有スルモノナルコトハ多言ヲ俟タスシテ明カナル（シ教化ニ關スル行政ハ（一）教育（二）著作（三）宗教（四）古社寺保存ノ四點ヨリ攻究スルヲ便ナス）（以下略）

教育ニ關スル現行規定ヲ説明スル前少シタ國家ト教育ノ關係ヲ述フヘシ抑モ

國家カ教育ヲ以テ其行政ノ一ト爲眞ニ至リタルハ近世ノヨリニシテ往古ノ國々察國ニ在リテハ學術ハ進歩改革ノ原動力ナルヲ以テ國家ノ保安ニ害アルモントシ教會ト相結ヒテ宗教ノ獨斷的教義ヲ以テ人心ヲ緊束シ其範圍外ニ逸出セラシメソコトヲ努メタリ然ルニ近世物質的文明ノ開發ト共ニ列國ノ生存競争益其甚シキヲ加ヘ内ニ進歩シタル國民ト充實シタル富力アリニ非ガレベ以テ外ニ對抗スルヲ得サルニ至リタルハキナラス眞理ハ遂ニ最後ノ戰勝者スニテ國家ト雖モ克ク眞理ヲ制壓スルヘ企及スヘキ所ニ非ガルコト分明ト爲ルニ至リタルヲ以テ近世之國家ハ學術大自由ヲ以テ原則トズルノミナラス其保護獎勵ヲ以テ重要ナル行政事務ト爲スニ至レリ詳言スレハ私人ニ教育ヲ放任スルハ到底不完備ナルヲ免レヌトシ國家自ラ進ミテ教育ニ干涉スルニ至レリ然レトモ現時歐洲各國カ教育ニ對スル主義ハ必シシモ盡一ナラスト雖モ之ヲ大別スレハ(一)自由主義(二)專占主義(三)折衷主義ノ三ニ歸ス何レモ國家カ教育ニ干涉スルニ於テ差異ナキモ國家自ラ教育ノ事ニ當ルヤ否ヤニ於テ差異アルモノトス即チ(一)國家自ラ教育セス全然私人ハ事業ト爲スノ制度ニシテ(二)國家

自ラ教育ヲ行フカ又ハ其機關タル公共團體ヲシラ之ヲ行ハシムルモノナリ三ハ私人ノ事業トシテ教育ヲ行フコトヲ許スモ又同時ニ國家ハ自ラ學校ヲ設立維持スルモノナリ此三主義ハ各時ヲ異ニシテ同一ノ國ニ行ハリ國ヲ異ニシテ同時ニ行ハレ或ハ各主義單純ニ行ハレ又結合シテ行ハルルモノトス然レトモ極端ナル放任ト獨占トハ共ニ近代ノ國家ニ適合セス教育ノ各階段ニ付キ自ラ此三主義ハ適用フ異ニハシヘシ即チ初等教育ニ在リテハ其普及ヲ期スルノ目的ヲ以テ國家又ハ公共團體自ラ之ヲ設備スルヲ可トスルモ必シシモ私人ノ事業トシテ之ヲ認ムヘカラザルノ理ナク又中等及ヒ高等教育ニ在リテハ往往ニシテ私人之力ニ及ハサルヲ以テ國家ハ自ラ其教育ヲ行ヒ又ハ一定ノ常規ヲ定メテ私人ノ事業ヲ認ムルモ敢テ差支ナキナリ我國目下ノ制度ハ即チ克ク其理法ニ適合シテ立チラレタルモノナリ

(第二) 小學校

小學校ニ關スル法規ハ小學校分ノ規定スル所ナリ錯雜フ避タル爲メ綱目ヲ分
チテ説明スヘシ

(一) 小學校教育ノ本旨及ヒ區分 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道徳教育及ヒ國民教育ノ基礎並ニ其生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授タルニ在リ之ヲ分チテ尋常小學校及ヒ高等小學校ノ二トス
 (二) 設置 審常小學校ノ設置ハ公共團體ノ義務ニ屬ス即チ(一)市町村ハ其區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ル(キ尋常小學校ヲ設置セサル)カ又ス(二)町村組合ニシテ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ一町村ト看做シ設置ノ義務ヲ負ハシム(三)強制學校組合ナルモノハ一町村ノ資力不足セバトキ學齡兒童ノ數少キトキ又ハ適當ノ通學路程内ニ一校ヲ構成スルニ足ラナレトキ郡長カ法定ノ手續ヲ經テ其構成ヲ命スルモノトスカシテ生シタル組合ハ設置ノ義務ヲ負フ(四)隨意學校組合ナルモノハ設備ノ完全ヲ期シ又ハ經費節減ノ爲メ町村協議シテ構成スル組合ニシテ其組合ハ又前同様設置ノ義務ヲ有ス故ニ小學校ノ設置ハ市町村其他ノ團體ノ必要事務ナリ

設置義務ヲ有スル團體ハ監督官廳ノ指定シタル數ノ學校ヲ其指定シタル地點ニ設置セナルヘカラス此義務ハ兒童少キトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ一校ヲ設立スルヲ得サトキニテハ他ノ團體ニ委託スルノ義務ト變形スルコトアリ又其義務ノ一部又ハ全部ヲ猶豫シテ私立學校ヲ以テ代用セシムルコトアリ
 寻常小學校ノ設置ハ必要事務ナルモ高等小學校ハ市町村組合等ニ於テ其負擔ヲ以テ隨意ニ之ヲ設立スルコトヲ得ルモノニシテ之ニ對シテハ設置ノ義務ナキモノナリ唯其設立及ヒ廢止ハ監督官廳ノ認可ヲ要ス
 私人ハ小學校ヲ設立スルコトヲ得私立小學校ノ設置ハ設立者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ届出シトヲ要ス
 (三) 就學 兒童滿六歲ニ達シタル翌月ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ學齡トシ
 學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ之ナキトキハ後見人共ニ學齡兒童保護者ト稱スハ就學ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテ學齡兒童ヲ就學セシムル義務ヲ負フ茲ニ就學ノ始期ト云フハ學齡兒童ノ學齡ニ達シタル月以後ニ於ケル最初

ノ學年ノ始ヲ謂ヒ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ其終期ト謂アナリ。即チ(一)兒童教育ハ父兄カ兒童ニ對シテ負擔スル自然ノ義務アルコト(二)或限度ノ教育ヲ人民ニ與フルコトハ國家ノ生存及ヒ發達ノ必要條件ナルコト是ナリ之ヲ兒童ノ方面ヨリ觀察スレハ即チ兒童ハ同時ニ二箇ノ強制保護者並服スルモノナリ曰ク父母曰ク國家是ナリ父母ハ其家ノ爲メニ之ヲ保護シ國家ハ其社會ノ爲メニ之ヲ保護ス父母ハ兒童ヲ其願望ニ適應スルノ發達ヲ爲サシムルノ權利ト義務ヲ有シ國家モ亦其小國民ヲ自己ノ組織ニ順應セシムルノ發達ヲ爲ナシムルノ權利ト義務ヲ有スルモノナリ。

(四) 授業料 市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス唯特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ徵收スルコトヲ得ルモノナリ授業料ハ市町村又ハ其區ノ收入ト爲ルモノナリ。強制教育ト授業料トノ關係ニ付テハ之ヲ一言スルノ必要アリ由來強制主義

ノ學者中ニモ單純ナル強制主義ヲ唱フ者ト同時ニ無償主義ヲ主張スル者トアリ前説ヲ唱フル學者ハ公立學校ハ父兄ノ義務ヲ盡サシムルニ付キ特ニ父兄ニ利益ヲ與フル所ノ國家ノ事業ナリ此父兄ニ利益ヲ與フル所ノ國家事業ニ對スル報酬ヲ徵收スルハ決シテ非理ナリト謂フヌ得スト論スレトモ是レ實ニ形式ノ上ニノミ偏頗シタル議論ニシテ實質上ノ如何又顧ミツル說ナリトス本問ノ燃點ハ父母ノ義務ノ範圍ベ(一)就學ノ義務ニ限ルベキヤ將タ(二)授業料納付ノ義務ニ及ブヘキヤニ在ルモノニシテ予ノ見ル所ニ依レハ一旦義務トシテ國家カ強制履行ヲ命シタル以上ハ其義務ノ履行ニ依リテ義務者ニカ利益ヲ得ルヤ將タ不利益ヲ被ルヤハ問フ所ニ非ヌシテ納稅義務ノ履行ト雖モ廣義ニ論スルトキハ國民ハ之ニ依リテ利益ヲ得ルモノナリト謂フヌ得ナルニ非ス果シテ然ラハ就學義務ノ履行ニ依リテ父母カ利益ヲ受クルコト正ラ根据トシテ同時ニ授業料納付ノ義務ヲ負ハシムルハ恰モ納稅義務者ニシテ更ニ納稅ヲ命スルト理ニ於テ擇ア所ナカルヘン故ニ強制教育ト授業料納付ノ義務ハ理論上相融合セサルモニシテ實際上ノ便宜問題トシテハ免

(五) 職員 小學校ノ教科ヲ教授スル者又本科正教員ト爲シ其教科中圖畫唱歌體操裁縫英語農業商業又ハ手工ノ一科目又ハ數科目ヲ限り教授スル者ヲ專科正教員トス本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス
小學校教員タルベキ者ハ免許狀ヲ受クルコトヲ要ス免許狀ニ普通及ヒ府縣ノ二種アリ前者ハ全國ニ效力アリ後者ハ府縣限リ效力アルモノニシテ共ニ法定ノ資格ニ適合スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
公立小學校長ハ其學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ナシム小學校長ノ職權ハ(二)傳染病ニ罹リ若クハ其處アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコト(二)教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ體罰以外ノ懲戒ヲ加フルコトニシテ第二ノ職權ハ一般ノ教員モ亦之ヲ有ス
(六) 管理及ヒ監督 市町村長又ハ町村學校組合長ハ市町村又ハ組合ニ屬スル

觸ナキヲ以テ此者昔再ヒ我國籍ヲ回復シタルヨリ其極未テ至當力失ト失唯茲ニ注意スヘキ也所謂婚姻之解消ナカニシテ失火死亡又ハ離婚又因リテ發生スバモノナル是カリ而シテ夫亡死亡大甚タ婚姻之解消半付テ別居論議ナシト雖モ離婚ニ因ル婚姻之解消ニ付シテ何無有國之法律ニ依リテ離婚又有効ニ成立シタルモリト認ムヘキカタ定立極人必要ノ事我國ニ於テハ法例第十六條ニ依リテ決定スヘキ問題ナリ強更後日之ヲ説明ス然カ故当茲ニ之失聯ス既ニ離婚ト云フ以上之歐洲諸國元於之認ムル異居又如キヘ之固包含セサルカ故ニ妻カ斯ル制度ニ從ヒ者別居ヲ爲ス場合並於之付我國籍ヲ回復ヲ爲ヌト能ハナルナリ又皆舉之失火失水失盜失財物失財物又其否ニ妻其並單獨(二)日本ニ住所ヲ有スベシトヘ此條件ニ附大日暮而歸來ヒ者我國民權爲保ム意思ヲ確實ナシテ固有ノ必要ヨリ出外者ルモ人カ少シ而シテ荷負一毫之住所アリ以上之住居在年限内間ハ离婚モ在院ス隨久其女在再嫁外國而歸次カル有後心又以方我國而歸來シ名付トキ其日ヨリ其國籍ノ居住所固有ス但者ヒムカ國籍ノ回復又爲不當モ又得許可ヒ受取ムトキニ別居セサル時限ニ付従ヒ者又其事

(三) 同復ヲ出願シ及セ許可ヲ受クルコト。國ニ依リテハ住所ヲ有スルノ一事ヲ以テ國籍ノ同復ヲ認ムルモノアリトモ我國ニ於テハ國籍ノ同復セント後ル者ハ更ニ積極的ニ自ラ其同復ヲ出願スルタ其出願ニ對シテ内務大臣カ許可ヲ與ヘテ始メテ國籍ノ同復スルコトヲ得ムモノトセリ是レ我國ノ利益ニ反ジ又ハ我國民ト爲ルヨトヲ許スヘカラナル重大ノ事由アル場合ニハ國籍同復ヲ否認スルコトヲ留保シタルモノナリ例ヘハ他國ノ間謀又ハ其者ノ妻其他敵国人ノ妻ト爲リタル者ニハ許可セサルカ如キ是ナリ尙ホ國籍ノ同復セントスル者ノ現ニ属セル國ノ法律如何ニ依リ或ハ妻カ其國ヲ去リテ我國ニ歸リタルトキハ其所屬國ノ國籍ノ喪失ト規定スルモノアリ斯ル場合ニ若シ内務大臣カ授ニ國籍同復ノ許可ヲ拒絶スルトキハ其者ハ竟ニ無國籍人ト爲ルヘシ以上ノ三條件ヲ具備スルトキハ此ニ始メテ我國籍ノ同復スルモノトス而シテ此規定ニ所謂婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル女子ニ二種アリ即チ生來ノ日本女子ニシテ婚姻ニ因リ國籍ヲ喪失シタル者及ヒ元來ハ外國人ナリシモ我國ニ歸化シタルカ若クハ歸化ノ效力ニ因リテ一タヒ我國籍ヲ取得シタル女子

カ外國人ト婚姻シテ我國籍ヲ喪失シタル者是ナリ此終ノ者モ亦國籍法第二十五條ニ依リテ國籍ノ同復スルコトヲ得ルナ否ヤ國籍法第二十五條ノ明文ヨリ言フトキハ之ヲ同復スルコトヲ得ベシト謂ハサルヘカラナルカ如シ然レトモ同法第二十六條但書ニ依レハ歸化人、歸化人ノ子カ我國籍ヲ喪失シタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ我國籍ノ同復スルコトヲ許サツル精神ナムコト明カナリ故ニ第二十六條ノ但書ヲ以テ第二十五條ノ但書ト看ルコト能ハサルモ第二十六條ノ但書ハ歸化人ニ對スル國籍同復禁止ノ獨立的一般規定ト解スルトキハ第二十五條ハ唯リ生來ノ日本女子ノニ關スル規定ニシテ歸化シタル女子ヲ例外ト認メタルモノト解釋スルヲ以テ穩當ナリトス詳大義セキ曲ニ致セ矣第二歸化ニ因リテ國籍ヲ喪失シタル者ノ國籍同復權を失者ニ就テ既蒙出生來ノ臣民カ任意ニ他國ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ於テ後日ニ至リ再ヒ舊國ニ復歸セントスル場合ニハ英國ヲ除クノ外何レノ國ニ於テニ移ヒ歸化人手續ヲ要セシシテ一定ノ條件ノ下ニ舊國籍ヲ同復シ得ムモノトスガリ通例トス我國籍法第二十六條ニ依レハ歸化ニ因リテ我國籍ヲ失ヒタル者第二〇條及ヒ夫

又諸父兄歸化ニ因リテ我國籍ヲ失セタル者(第十三條)、日本之性所ヲ有スル者ト及セ内務大臣又許可せ得ルヨリソシ候件ヲ以テ我國籍ヲ喪失シタル者乃生來ノ日本人ニ非ヌテ歸化人及シ歸化人ノ妻子又ハ夫婚姻及合卷子縁組且因テノ我國籍ヲ取得シタル者ナリシ國キハ我國籍ヲ回復スル事例少許サス故ニ此等ノ者カ再ヒ。我國籍ヲ取得セント欲セバ更ニ歸化ニ依リテ之ヲ取得スルヨリ他ニ途ナキモノト大蓋シ此制限ヲ設ケタム理由ハ歸化ト國籍回復トハ其效力ヲ異ニアル故ナリ既善説明シタルカ如ク歸化ト因リテ我國籍ヲ取得シタル者ノ生來ノ日本大體異才六才或稱之權利ヲ享有スルコトヲ得ツルモ國籍ノ回復ハ後ニ說明スルカ如ク全ク我國ノ臣民タル資格ヲ回復スル者ノニ該テ一旦國籍ヲ回復シタム以上本同復者ノ權利ニ何等ノ制限ナキモノ大體然ニ並若シ歸化人ニ國籍回復ヲ許エドキ其歸化人カ歸化人トシテ繼承スル限ハ或權利ヲ制限ヲ受タム拘ルラス。且我國籍ヲ失ヒタル後更ニト同復スルトキニ全ク生來ノ臣民秋間ニ取扱フカ如何不條理ニ陷ルカ故ニ同條但書ヲ以テ斯ム弊害ヲ謹防

タル完ヌナリニシテ長國ノ國體ニ取扱シ難くセキ失ヒタル國籍ヲ回復スル時第三種國籍回復ヲ效力本國ノ國體ニ取扱シ難くセキ失ヒタル者生來ノ國民が全般同六ニ該テ(一)夷自己國及ホス效力ノ國籍ヲ回復シタル者生來ノ國民が全般同六ニ該テ我臣民タル一切ノ権利特典ヲ享有ス是レ歸化ト異ナシ所要點ナス然ニ別モ國籍回復トハ其文字ニ依リテ明カナルカ如ク唯將來ニ對シテ國籍ヲ回復スルノミニシテ既往ニ遡リテ之ヲ回復スルモノニ非ス羅馬ノ古代ニ於テハ國籍ノ回復ニ遡及效ヲ付與シ猶ヨリ全ク國籍ヲ失ハナリシモノノ觀看做スミ利ヲ認メタリト雖モ遙世ニ於テハ各國皆斯ガ效果ヲ認メス惟將來ニ對ニシテ效力ヲ付與スルノミニ貴國體ニ取扱シ難くセキ失ヒタル者生來ノ國民が全般同六ニ該テ(二)妻ニ及ホス效力ノ國籍ヲ回復シタル者ノ妻本當然我國籍ヲ回復スルモノト夫其妻カ生來ノ日本人ニシテ前述第一ノ各條件ヲ從ヒテ我國籍ヲ回復スル得能無事ハ論六次ト雖モ若夫其妻カ生來ノ外國人タル場合例ハ夫男子が我國籍ヲ失セタル後外國士於テ外國夫タル女子ト婚姻關係の場合ニ於テノ其妻ハ我が國籍ヲ回復スルモノ入非ヌシテ國籍法第二十七條ニ依リ同第十三條及ヒ第十

四條ヲ單用セラル結果トシテ新ニ我國籍ヲ取得ス所モノトス三節後テ該

(三) 子ニ及ホス效力我國籍ヲ喪失シタル者カ其國籍喪失前ニ生ミタル子ハ國籍法第二十六條ニ依リテ我國籍ヲ回復スルモノトス然レトモ其子カ父ノ國籍ヲ喪失シタル後ニ生レタル者ナルトキハ同第二十六條ニ依リテ我國籍ヲ回復スルモノニ非シテ第二十七條人規定ニ依リ第十五條ヲ準用スル結果トシテ新ニ我國籍ヲ取得スルモノナリ隨テ斯ル場合ニ於ケル子ハ其本國法ニ依リテ未成年ナルトキニ限リ我國籍ヲ取得スルモノニシテ其本國法ニ依リ成年者ナルトキハ歸化ノ手續ニ依ルコトヲ要スルモノナリ(國籍法第九條)

第五節 國籍ノ抵觸

以上述ヘタル所ニ依リ我國籍法ニ於クハ如何ナリ條件ニ因リテ我國籍ヲ取得シ喪失シ回復スヘキモノナルヤフ明カニセリ而シテ我國籍法ハ外國人カ我國籍ヲ取得スルニハ先ツ其本國ノ國籍ヲ喪失スルコトヲ必要トシ又我國人カ我國籍ヲ喪失スルニハ外國ノ國籍ヲ取得シタルコトヲ條件トシ力メテ國籍ノ相

抵觸スルコトヲ避ケタレトモ現時各國ノ國籍法各其主義ヲ異ニセル結果トシテ尙ホ往往之カ抵觸ヲ見ルコト多シ故ニ將來各國カ條約ヲ以テ同一規定ヲ採用セナル限ハ到底抵觸ヲ免ルノ期ナカルヘシ果シテ然ラハ國籍ノ抵觸ハ如何ニシテ之ヲ解釋スヘキヤ是レ國籍法ノ問題ニ非シシテ國際私法上ノ問題ナリトス即チ前第四節ニテ略説セシ所ハ此問題ヲ研究スルノ前提タルニ過キス抑モ國籍ノ抵觸ニハ積極的抵觸ト消極的抵觸ノ二種アリ今便宜ノ爲ノ左ニ之ヲ區分シテ説明スヘシ(註解)國籍法之說法(註解)我國籍法之說法(註解)

(4) 極的抵觸此場合ハ専定ノ一箇人カ二箇以上ノ國籍ヲ有スル場合即チ二箇以上ノ國家カ同時ニ自國ニ屬セル臣民ナルコトヲ主張スル場合ニ起ルモノナリ斯ル場合ハ或ハ出生ニ因リテ生スルコトアリ例ヘバ血系主義ヲ採ル國ノ臣民カ出生地主義ヲ採ル國ニ於テ子ヲ生ミタル場合ノ如シ又或ハ出生後國籍ヲ變更スル場合ニ於テ生スルコトアリ例ヘバ歸化人カ新ニ國籍ヲ取得シタルニ拘ハラス其本國法ニ於クハ仍ホ其國籍ヲ喪失セツル者ト認ムル場合ノ如キ是ナラ
註解(註解)國籍法之說法(註解)我國籍法之說法(註解)

(ロ) **並消極的低觸** 此場合ハ特定ノ一箇人ニ對シシ何レノ國家モ其者ノ自國ニ屬セナ所ロトヲ主張スル場合ニ發生不應有者ニ於テ次第ノ低觸ノ結果無籍人ヲ生スルモノトス例ヘヤ外國ニ移住シタル者再對シ移住國本國籍ヲ取得禁乎ルニ先チ其本國ノ國籍ヲ喪失シタルが如キ是尤ダ大誤合ハ故ニ又爰ニ出生過誤我國籍法ハ外國人國籍ヲ取得制シテ限ニ我國籍ヲ喪失セサムモ在斯ノ所ノ原則ヲ採リタルニ由リ大ニ消極的低觸ヲ減少スルユトス得無モ積極的低觸ニ至リテハ此處如キ完全者ル豫防ス爲燕ストニ得底殊ニ我國ニ特別大懲入夫婦姻及上養子制度ノ爲メテ低觸ノ原因ヲ增加セリ左ニ先ツ國籍低觸ノ發生スヘキ主要ノ原因ヲ略説シ然者後國籍低觸ニ適用ソヘキ國際私法上有原則ヲ説明シントスヤ爾義理ニ於テ低觸ヲ減少シ得ム出問題ヲ掲ズ太極ニ而製矣ニニ該字固ニ當矣也第第一款 **國籍低觸ノ原因** 前項ニ非外國人國籍者生ノ問題也
即ち之謂也度過誤也或火事、戰火等ノ事案ハ我國人國籍ノ被觸也或
然尚存其餘也第第一項 **積極的國籍低觸ノ原因** 以太國ニ異居者也
第一大生來ノ國籍低觸ノイニ他國者國籍者否其生地又異ニ此該事例

- (甲) 血系主義ヲ採ル法律ノ間ニ發生スル各國皆血系主義ヲ採リ出生地ノ如何ニ拘ハラス内國人ノ生ミタル子ハ皆内國人ナリトスルトキハ其間ニ國籍ノ低觸ナルモノノ發生スヘキ理ナキカ如シト雖セ此原則ハ必シモ同様ニ適用セラレナル結果トシカ仍ホ低觸ヲ生スルコトアグフ免レス何トナレハ血系主義ヲ採ル多クノ國ニ於テハノノ出生當時ニ於ケル父母ノ國籍ニ依リテ其子ノ國籍ヲ定ムレトモ羅馬法ノ原則ニ從ヒ嚴正ナル血系主義ヲ採ル國ニ於テハ懷胎ノ當時ニ於ケル父母ノ國籍ニ依リテ子ノ國籍ヲ定ムヘキモノトスルカ故ニ等シク血系主義ヲ採ル國ノ間ニ於テモ仍ホ低觸ヲ察スコトアシハナリ我國ニ於テ又ハ養子計爲ル場合ニ於テハ第二條ノ適用ニ依リ其子至我國籍ナ其父ノ國籍陸ヲ有スルニ至ゼヘシ假に國人無矣生ミ土生えハイチハ其子ハ非國籍也其(乙) 豊血系主義メ法管上出生地主義ナ法律上ノ低觸王此低觸ハ積極的低觸發生

○最重要ナル原因ニシテ例ハ我が國者如キ血系主義ヲ採ル國ノ人民ニ南米
諸國ノ如キ出生地主義ヲ採ル國ニ於テ子ヲ生ミタルトキハ其子ハ我國籍ヲ取
得スルト同時ニ又其出生地ノ國籍ヲ有スハ是以是が主義ヲ正反對ナル事ニ起ル
抵觸ニシテ各國其主義ヲ一致セサル處ニ到底免れハ至ラケル事ナリトス人夫
(丙) 血系主義ノ法律ト折衷主義ノ法律ヲ以て抵觸ニ此抵觸之例ハ我が國ノ人民
カ佛國ノ如キ血系主義及ヒ出生地主義ヲ折衷セル法律ノ行ハル國ニ於テ生
ミタル子ニ付テ起居所ホリ即チ佛國ニ於テハ佛國ニ於テ生レタル外國人カ佛
國ニ於テ生ミタル子ハ之ヲ佛國人トス然ルニ我國ニ於テハ外國ニ滞在スル年
限如何ニ依リテ我國籍ヲ失フヨトヲ認ヌラズ故ニ斯ル子モ亦日本人トシテ
我國籍ヲ取得スベシ隨ナ其子ハ二箇ノ國籍ヲ有スルニ至ルハシ又例ヘハ佛英
國等ニ於テハ外國人ノ生ミタル子カ成年ニ達シテ父ノ國籍ヲ選擇タルカ又ハ
自國ノ臣民トス故ニ日本人カ佛英國ニ於テ生ミタル子ハ其出生地ノ國籍ヲ取
得ズヘタ若シ成年ニ達シテ我國籍ヲ選擇スルコトヲ忘ルトキ其絕對的ニ出生
地ノ國籍ヲ取得スルモトト既然ルニ我國ニ於テハ斯ル子ハ絕對的ニ我國ノ國

籍ヲ取得スヘキヲ以テ此ノ如キ抵觸ハ屢々發生スベシヘ堪へ難職ニ因リテ外國
(丁) 双方共折衷主義ヲ採ル法律ノ抵觸生双方共ニ折衷主義ヲ採ル國ノ間ニ
於テモ仍ニ積極的抵觸發生スヘシ即チ自國人人生ミタル子ハ外國ニ於テ生レ
タル場合ニ於テモ絕對的ニ自國人ト看做スト同時ニ外國人カ内國ニ於テ生ミ
タル子ハ其子カ成年ニ達シテ父ノ國籍ヲ選擇スルマテハ内國人ノ國籍ヲ取得ス
トスルカ故ニ此間ニモ亦著シキ抵觸アルナリ例ヘハ白佛國間ニ於ケル國籍抵
觸ノ如キ是ナリ

第二來國籍ノ變更ニ伴ヒテ生スル抵觸即ち國人ハ外國人ハ内國人ハ外國人
生來ノ國籍ニ付テ既ニ國籍抵觸ノ發生スルヨトアルヲ知ラハ國籍變更ノ場合
ニ於テハ抵觸ノ發生ハ更ニ益多キコトヲ知ルニ足シシ蓋シ出生ニ因リテ取
得スル國籍ニ付テハ唯ニ主義ノ差異アルノミナレトモ國籍ノ變更ニ付テハ一
方ニ於テハ國籍ノ喪失ニ關スル各國ノ規定必シモ同ニナラナルノミカラス
他ノ一方ニ於テハ取得ニ關スル各國ノ規定亦區區ニシテ其孰リ一ニセザルが
故ニ之カ抵觸ヲ來スヘキ原因舉ケテ數フハカラス今一一之ヲ列舉スル必要ナ

キヲ以テ唯二三ノ主要ナル場合ヲ説明スルニ止ムヘン

- (一) **妻外國人タル女内國人ノ妻ト爲リタル者** 我國籍法ノ規定ニ依レハ外國人タル女カ日本人ノ妻ト爲リタル場合ニハ常ニ我國籍ヲ取得スルモ南米諸國ニ於テハ女子カ外國人ニ嫁スルモ仍本國籍ヲ失ハサルモノトスルカ故ニ斯ル國ノ女子カ日本人ノ妻ト爲リタル場合ニハ往往國籍ノ抵觸ヲ發生スヘシ又米國ノ法律ニ依レハ米國ノ女子ハ外國人ト婚スルモ其外國ニ移住セサル限ハ仍ホ米國ノ國籍ヲ失ハサルモノト爲ス隨テ我國人カ米國ニ於テ米國ノ女子ト婚スルトキハ常ニ國籍ノ抵觸ヲ生ス
- (二) **入夫外國人カ本邦人ノ入夫ト爲リタルトキハ當然絕對的ニ我國籍ヲ取得ス然ルニ歐米諸國ニ於テハ入夫婚姻ノ制度ナク外國人ノ入夫ト爲リタルカ爲メニ其國籍ヲ失フコトヲ認メサルカ故ニ我國ノ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲ス外國人ハ其本國ヨリ國籍ヲ脱スル許可ヲ得サル限ハ仍ホ本國ノ國籍ヲ有スルモノトス故ニ斯ル場合ニモ亦國籍ノ抵觸ヲ生スヘシ**
- (三) **私生子ノ認知** 我國籍法ニ依レハ私生子ハ父又ハ母ノ認知ニ因リテ我國

眞理アリ商法ノ開拓者アリテ後繼ノアリテ國外に發展シ
カソリテ國外に發展シテ國外に發展シテ國外に發展シテ國外に發展シテ
○支拂拒絶證書作成義務免除ト舉證ノ責任商法支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シ
タル場合ニ於テ手形ヲ呈示シタルコトノ證明ハ所持人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ
要スルカ將タ其證明ヲ爲ササルモ呈示アリタルモノト推定セラルルモノナリ
ヤニ對スル大審院ノ説明ニ曰ク我商法ニ於テ手形ノ所持人カ拒絶證書ニ依リ
手形ノ呈示ヲ爲シタル事實ヲ證セサルトキハ其前者ニ對シ手形上ノ權利ヲ失
フヘキ旨ノ規定ヲ設ケ其立證方法ヲ公正ノ力アル前記立證方法ノ一ニ制限シタル
所以ノモリハ呈示事實ニ存否ニ付キ生スヘキ紛争ヲ避ケシム爲ミニ外ナラス
而シテ其規定ハ畢竟關係者ノ利益ノ爲メニ生シタルモノナレハ其利益ヲ受ク
ヘキ關係者ニ於テ自由ニ該規定ノ利益ヲ抛棄シ得ヘキ勿論カリト雖モ其他
實即チ拒絶證書作成義務ノ免除ハ單ニ前記立證方法ノ制限ヲ解キ手形所持人
ヲシテ普通ノ證據方法ニ依リ呈示ノ事實ヲ證スルノ權ヲ回復セシムニ過カ
ズ一切ノ立證責任ヲ免除スルモノニアテナレハ総合セ拒絶證書作成義務ノ免

除フ得タル場合ト雖モ手形所持人カ呈示ノ事實ヲ大張モトスル者自ラ先ツ其主張事實ヲ證スヘキ責任アルモノトス」(大審院明治三十五年六月十日第廿四號)。○使用者アル商標ニ意義有リ商標法第二條第五號ニ所謂此ノ法律施行以前ヨリ他ニ使用者アル商標トアル法文ノ適用ニ付キ特許局ト大審院トハ其見解ヲ異ニシ大審院ハ原審決ヲ破棄シ之ヲ差戻シタル判決理由ニ曰ク商標法第二條第五號ニ此法律施行以前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若ハ類似ノモノトアルハ商標條例又ハ商標法ノ保護ヲ享クルコトヲ得ル者ニ於テ使用スル商標ノミヲ指示シタルニ非シテ商標法施行以前商標條例ノ保護ヲ受ケタリシ日本ノ領土タル臺灣ノ臣民ノ使用シタル商標モ亦之ヲ包含スルノ法意ナリトス抑帝國ニ於テ商標保護ノ法律ヲ制定シタルハ明治十七年第十七號布告ノ商標條例ニシテ同條例施行以前ニ在テ未タ曾テ商標ノ保護ヲ受ケタルモノニアラナルコト勿論ナリ然ルニ猶ホ同條例第五條第四項ノ規定ヲ設ケテ以前ヨリ使用者アル商標ト同一ノモノニハ専用ヲ許ササリシニ對照シテ之ヲ觀ルモ現行

商標法ニ於ケル前掲ノ規定ハ則創定商標條例ト同一ノ精神ニシテ其法意ノ存スル所知ルヘキナリ云云ト(大審院明治三十五年六月十日第二十四號乃至第二十八號登録商標無効審判請求事件明治三十五年六月六日第十二號)

○町村ノ區ノ代表權 町村ノ區カ人格ヲ有スルヤ否ヤハ町村制施行以來ノ疑問タリ殊ニ區會ノ設ナキ區ニ至リハ學說判例共ニ區區ナリシカ如シ此點ニ關シ近頃大審院カ判斷ヲ與ヘラレタル所ヲ見ルニ曰ク「町村制第百四條ニ於テ町村内ニ在ル區ニシテ特ニ其財產ヲ所有スル場合ニ區會ヲ設ケ其事務ヲ審理スルコトヲ得セシメタルモノハ區ハ獨立シテ権利ノ主體タルヘキコトア認メタル結果ニ外ナラズ又同法第百十五條ニ依レハ區有財產ハ町村長ノ主管ニ屬シ町村長ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ從ヒ其事務ヲ管理スヘキ者ナルヲ以テ區ニ區會ノ設ケナキ場合ニ於テ區有財產ノ管理ヲ為スニハ其行爲性質ニ因リ町村會ノ決議ヲ經ヘキコト毫モ疑フ容レス而シテ町村ニ關スル訴訟ニ付キ町村長カ町村ヲ代表シ訴訟行為ヲ為スニハ町村會ノ決議ニ依ラナルヘカラナルコトハ町村制第三十三條第十一號ニ規定スル如クナルヲ以テ其區有財產

其決議アルトキハ別ニ區會ヲ設ケ其決議ヲ要スル手續ヲ俟タスシテ區ノ訴訟ヲ爲スコトヲ得セシムルモノト解釋セサルヘカラス蓋シ町村内ニ在ル區ニシテ特ニ財產權ヲ有スル以上ハ其保全ニ必要ナル訴訟モ亦其名義ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ必然ノ結果ニシテ町村制第百十五條ハ斯ル必要アル場合ニ

町村長カ區ヲ代表スヘキコトヲモ豫想シタル規定ナリト謂ハサルヲ得サレバナリト(大審院明治三十四年(大正)第四百四十五號民地科訴)

○判決ノ基本タル口頭辯論ノ意義 民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂判決ハ其基本タル口頭辯論云々の意義ニ付キ大審院ハ説明シテ曰ク同一訴訟ニ付數回ノ口頭辯論アリテ各辯論毎ニ立會判事ヲ異ニセシ場合ニ於テ所謂判決ノ基本タル口頭辯論トハ其判決前ノ最終ノ口頭辯論ノミヲ云フモノニシテ其以前ノ口頭辯論ハ基本タル口頭辯論ニアラサルナリト(大審院明治三十五年(大正)月號二求十日事件明治三十五年五)

(注意) 続外生月謝納付ノ際ハ必ず本紙ヲ切抜キ居所、氏名及爲替書類、金額、並ニ期日附記、

納付書

爲替書類()

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也
居所

明治三十五年
月 日

和佛法律學校會計局御中

爲替書類()	納付書
一金	
但第 學年 月分月謝	
右納付候也 居所	
明治三十五年 月 日	

ニ關スル訴訟ニ付キ區ヲ代表スルニモ亦町村會ノ決議ニ依ルヘキモノニシテ
其決議アルトキハ別ニ區會ヲ設ケ其決議ヲ要スル手續ヲ俟タスシテ區ノ訴訟
ヲ爲スコトヲ得セシムモノト解釋セサルヘカラス蓋シ町村内ニ在ル區ニシテ
テ特ニ財產權ヲ有スル以上ハ其保全ニ必要ナル訴訟モ亦其名義ニ於テ之ヲ爲
スコトヲ得ヘキハ必然ノ結果ニシテ町村制第百十五條ハ斯ル必要アル場合ニ
町村長カ區ヲ代表スヘキコトヲモ豫想シタル規定ナリト謂ハサルヲ得ケレバ
ナリ」ト(大審院明治三十四年(大)第四百四十五號裁地科請)

○判決ノ基本タル口頭辯論ノ意義 民事訴訟法第二百三十二條ニ所謂判決
ハ其基本タル口頭辯論云々の意義ニ付キ大審院ハ説明シテ曰ク同一訴訟ニ付
數回ノ口頭辯論アリテ各辯論毎ニ立會判事ヲ異ニセシ場合ニ於テ所謂判決ノ
基本タル口頭辯論トハ其判決前ノ最終ノ口頭辯論ノミテ云フモノニシテ其以
前ノ口頭辯論ハ其基本タル口頭辯論ニアラサルナリ」ト(大審院明治三十五年(大)
月復請求事件明治三十五年五月三十日民事部判決)

(注意) 檢外生月謝納付ノ際ハ必ず本紙ヲ切抜キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ學年附、
月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納付書

爲替番號()

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年
月 日

和佛法律學校會計局御中

納付書

爲替番號()

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年
月 日

和佛法律學校會計局御中

校外生規則摘要

明治三十五年八月十四日印刷 (定價金參拾錢)
明治三十五年八月十五日發行

講義錄ヲ分ナテ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

講義錄ノ掲載科目左ノ如シ

第一學年 法律概論、民法、民法第一編及第二編、第六章

マツ、税法、商法、商法第一編第二編、第五章

第三學年 民法第三編、商法第一編第二編、第六章
法(各編)、民事訴訟法第一編第二編、行政訴訟法、財政法

第三學年 田法(第二編第一章以下)、税法、商法

(第三編)、第五編、民事訴訟法(第三編以下)、行政訴訟法、國際私法

一 講義錄ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年 五日 二十日 第二學年 十日 廿五日

第三學年 十五日 三十日(毎月二回リ未だ)

校外生ハ何時ニラモ入學スルコトヲ得

一 月謝金左ノ如シ

第一學年 金三十錢 第二學年 金四十錢

第三學年 金五十錢 全學年 金一百圓

一 月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通票早達便ヲ

以テ東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

和佛法律學校會計局宛ニテ送付スベシ

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可

東京市芝區西ノ久保町十一番地

板 田 久 大 郎

東京市牛込區矢来町三番地

小 宮 山 信 好

印 刷 者

金 子 活 版 所

印 刷 所

司 法 省

發 行 所 指 定 和 佛 法 律 學 校
(電話番町百七十四番)